

〈学校・教育機関編〉

主体的な学びを引き出す

TOEIC® Program の活用

～その先にある発信力の強化～

2016年8月5日（金）

ベルサール半蔵門 イベントホール

2016年度 TOEIC® セミナー報告書

〈学校・教育機関編〉

主体的な学びを引き出す TOEIC® Program の活用

～その先にある発信力の強化～

Contents

開会挨拶	1
IIBC からのご報告	
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 広報室 室長 島田 敬子	
事例発表 (1)	4
「学生の気付きを引き出すための TOEIC® Listening & Reading Test の活用」	
早稲田大学 商学部 教授 森田 彰 氏 早稲田大学 商学部 教授 鈴木 利彦 氏	
事例発表 (2)	14
「グローバル社会に対応しうる英語 4 技能育成を目指して」	
群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部 教授 細井 洋伸 氏	
TOEIC® S&W について	25
「TOEIC® Speaking & Writing Tests の採点方法および “タスク” の紹介」	
Ms. Alyssa Francis Educational Testing Service (ETS)	
模擬授業	32
「TOEIC® Speaking Test のタスクを活用した技能統合型授業実践の一例」	
TOEIC® Propell Workshop Instructor 講師 横川 綾子 氏 (東京海洋大学 グローバル人材育成推進室 特任准教授)	

主催 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

日時 2016年8月5日 (金)

会場 ベルサール半蔵門 イベントホール

対象者 大学、短大、中・高等学校の教職員の皆さま

開会挨拶

IIBC からのご報告

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

広報室 室長 島田 敬子

TOEIC® Program の名称変更について

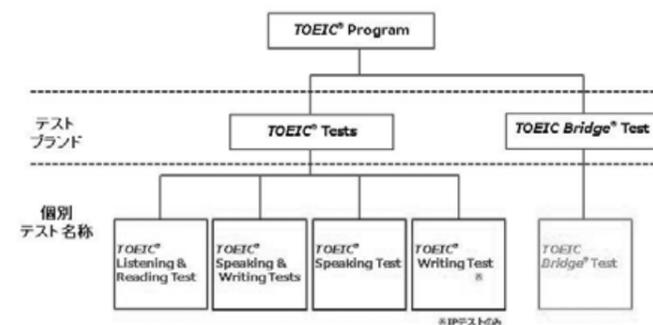
本日は、TOEIC® セミナーにご参加いただき、まことにありがとうございます。冒頭に当協会の紹介および、TOEIC® Program の名称変更について、そして TOEIC® Listening & Reading Test の Updates について紹介させていただきます。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) は 1986 年 2 月に設立され、グローバルコミュニティにおける円滑なコミュニケーションの促進をミッションに、人と企業の国際化の推進に貢献してまいりました。TOEIC® 事業とグローバル人材育成事業の 2 つを大きな柱として活動しております。

TOEIC Program は、日常生活からビジネスまで幅広い英語によるコミュニケーション能力を評価する世界共通のテストで、米国の Educational Testing Service (ETS) が開発・制作を行っています。世界では 150 カ国、約 700 万人が受験し、約 14,000 の企業、団体、学校で採用されています。

【資料 1】

【TOEIC® Program 体系図】



【資料 2】

【TOEIC® Program 名称】

名称	テストブランド	個別テスト正式名称	短縮名称
TOEIC® Program	TOEIC® Tests	TOEIC® Listening & Reading Test	TOEIC® L&R
		TOEIC® Speaking & Writing Tests	TOEIC® S&W
		TOEIC® Speaking Test	TOEIC® Speaking
		TOEIC® Writing Test	TOEIC® Writing
	TOEIC Bridge® Test	TOEIC Bridge® Test	—

まず TOEIC Program の名称変更についてご説明いたします。これまで「TOEIC® テスト」の名称で実施・運営していた英語の Listening と Reading の 2 技能を測定するテストを、「TOEIC Listening & Reading Test」に名称変更いたします。

また「TOEIC® Speaking & Writing」の名称で実施しておりました英語の Speaking と Writing の 2 技能を測定するテストを、「TOEIC® Speaking & Writing Tests」に名称変更いたします。

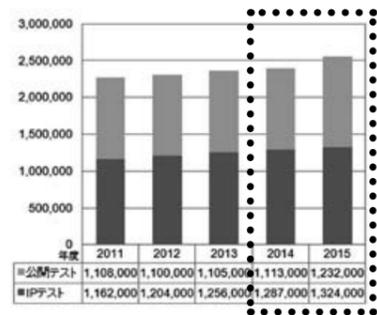
名称変更と同時に、TOEIC Listening & Reading Test と TOEIC Speaking & Writing Tests により英語

4 技能を総合的に測定できることを、より多くの方々に知っていただくために、両テストを総称するテストブランド「TOEIC® Tests」を新設しました。さらに初中級者の英語能力を測定する「TOEIC Bridge® Test」を加えて、全体を「TOEIC Program」と総称いたします。

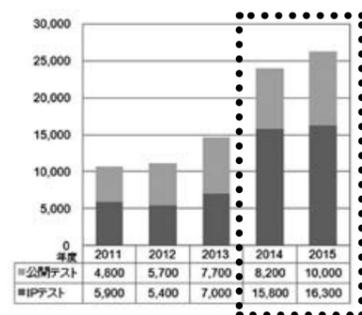
TOEIC Speaking & Writing 公開テストにおいては、TOEIC® Speaking Test のみで受験いただくことも可能です。また、団

【資料 3】

TOEIC® Listening & Reading Test



TOEIC® Speaking & Writing Tests



リスニングセクションでは複数の人々が参加する会話形式が新たに加えられました。また、図表などの資料を見ながら、会議や会話をする場面を想定した設問など、グローバルビジネスにおける英語のコミュニケーション方法が時代とともに変化してきたことを背景に、一部新形式問題を導入することとなりました。

出題形式は変更となりますが、

テストのクオリティーと難易度に変更はございません。変更後の TOEIC Listening & Reading Test を受験しても、現在学内で導入いただいている IP テストとスコアの意味は同じで、スコアの比較も可能です。

体特別受験制度（以下、IP テスト）では、TOEIC Speaking Test のみ、TOEIC® Writing Test のみでも受験することができます。

名称変更のポイントをまとめると、本日より「聞く」、「読む」技能を測定する TOEIC テストは TOEIC Listening & Reading Test に、「話す」、「書く」技能を測定する TOEIC Speaking & Writing は TOEIC Speaking & Writing Tests に名称変更となり、この2つを受験することで英語 4 技能を測定できます。この変更に伴うテスト内容の変更はございません。

日本における TOEIC Program の 2015 年度の総受験者数は、277 万 9300 人で、そのうち TOEIC Listening & Reading Test は 3400 団体、255 万 6000 人、TOEIC Speaking & Writing Tests は 380 団体、2 万 6300 人と、両テストとも昨年度の受験者数は過去最高となりました。

【資料 4】

変更前				変更後(2016年5月29日公開テストより)			
パート	name of each part	パート名	問題数	パート	name of each part	パート名	問題数
リスニングセクション(495分間)				リスニングセクション(495分間)			
1	Photographs	写真描写問題	10	1	Photographs	写真描写問題	5
2	Question-Response	応答問題	30	2	Question-Response	応答問題	25
3	Conversations	会話問題	30 (3x10)	3	Conversations (with and without a visual image)	会話問題	39 (3x13)
4	Talks	説明文問題	30 (3x10)	4	Talks (with and without a visual image)	説明文問題	30 (3x10)
リーディングセクション(990分間)				リーディングセクション(990分間)			
5	Incomplete Sentences	短文穴埋め問題	40	5	Incomplete Sentences	短文穴埋め問題	30
6	Text Completion	長文穴埋め問題	12 (3x4)	6	Text Completion	長文穴埋め問題	16 (4x4)
7	Single passages Multiple passages	1つの文章 複数の文章	20 20	7	Single passages Multiple passages	1つの文章 複数の文章	20 25

変更後もリスニングセクション約 45 分間 100 問、リーディングセクション 75 分間 100 問、トータル 2 時間 200 問は変わりません。またスコアも、リスニング 5 ~ 495 点、リーディング 5 ~ 495 点、トータル 10 ~ 990 点で、5 点刻みとなります。

【資料 5】

リスニングセクションの変更点

- 写真描写問題(Part 1)と応答問題(Part 2)の設問数が減ります。
- 会話問題(Part 3)の設問数が増えます。
- 会話問題の中に、発音が短くやりの多いものが増えます。
- 3名で会話する設問があります。
- Elisions(省略形: going to が gonna など)、Fragments(文の一部: Yes, in a minute; Down the hall; Could you? など)を含む会話が増えます。
- 会話やトークの中で聞いたこと、問題用紙に印刷された図などで見た情報に関連づけて解答する設問が増えます。
- 会話やトークの中で話し手が暗示している意図を問う設問が増えます。

変更前				変更後			
パート	name of each part	パート名	問題数	パート	name of each part	パート名	問題数
リスニングセクション(495分間)				リスニングセクション(495分間)			
1	Photographs	写真描写問題	10	1	Photographs	写真描写問題	5
2	Question-Response	応答問題	30	2	Question-Response	応答問題	25
3	Conversations	会話問題	30 (3x10)	3	Conversations (with and without a visual image)	会話問題	39 (3x13)
4	Talks	説明文問題	30 (3x10)	4	Talks (with and without a visual image)	説明文問題	30 (3x10)

TOEIC® Listening & Reading Test の Updates について

次に、TOEIC Listening & Reading Test の Updates について報告します。今年 5 月の公開テストより、TOEIC Listening & Reading Test の出題形式を一部変更しました。これは、2006 年の TOEIC テストの改訂以来 10 年ぶりの変更となります。IP テストについては、2017 年 4 月より新形式に移行いたします。

新形式問題導入のテーマは、よりオーセンティックなコミュニケーションです。今回の変更では、過去 10 年間で頻繁に使われるようになってきたコミュニケーション方法を選択し、テスト問題として取り入れています。メールだけでなく、チャット形式のコミュニケーションやビデオ会議などの普及により、リスニ

リスニングセクションでは、パート 1 の写真描写問題とパート 2 の応答問題は設問数が減ります。パート 3 の会話問題の設問数が増え、会話問題には発言が短く、やり取りの多いものが増えます。会話やトークの中で聞いたことと問題用紙に印刷された図などで見た情報に関連づけて解答する設問が増えます。また、会話やトークの中で話し手が暗示している意図を問う問題や 3 名で会話する設問も増えます。

【資料 6】

Examples of New Item Types

LISTENING TEST

PART 3

Questions 7 through 9 refer to the following conversation with three speakers.

※音声のみ・実際の問題用紙には印刷されていない。

Man A: Have you two taken a look at the progress they've made upstairs on the office expansion? It looks great!

Woman: I know! // I can't believe it!!! And the offices up there have amazing views of the city.

Man B: I wonder which division will move up there when it's finished.

Woman: I heard it's the research department.

Man A: Ah, because they have the most people.

Woman: Probably. I'd love to have an office on that floor, though.

Man B: Yeah. Well, the company must be making good money if they're adding that space!

Man A: I think you're right, there!

※問題用紙に設問は印刷され、放送もされる。選択肢は印刷のみ。|

資料 6 が 3 名での会話の例です。このように男性 A、女性、男性 B という 3 名の会話が増えます。日常生活の中で、複数の人とのやり取りを反映した問題となっています。

【資料 7】

リーディングセクションの変更点

- 短文穴埋め問題(Part 5)の設問数が増えます。
- 長文穴埋め問題(Part 6)の一つの文章に含まれる設問 13 問から 4 問に減ります。
- 文章の全体が構成を理解しているか問う設問が増えます。具体的には、①長文穴埋め問題で、文章内の空欄に最も適切な一文を選ぶ問題②Part 7 (1つの文章)で、文章内に該当する一文を挿入するのに最も適切な箇所を選ぶ問題
- テキストメッセージやインスタントメッセージ(チャット)、オンラインチャット形式で複数名がやり取りを行う設問が増えます。
- Part 7 (1つの文章、複数の文章)の設問数が増えます。
- Part 7 (複数の文章)で 3 つの関連する文章を読んで理解する設問が増えます。
- 文章中で書き手が暗示している意図を問う設問が増えます。

変更前				変更後			
パート	name of each part	パート名	問題数	パート	name of each part	パート名	問題数
リーディングセクション(990分間)				リーディングセクション(990分間)			
5	Incomplete Sentences	短文穴埋め問題	40	5	Incomplete Sentences	短文穴埋め問題	30
6	Text Completion	長文穴埋め問題	12 (3x4)	6	Text Completion	長文穴埋め問題	16 (4x4)
7	Single passages Multiple passages	1つの文章 複数の文章	20 20	7	Single passages Multiple passages	1つの文章 複数の文章	20 25

リーディングセクションでは、短文穴埋め問題の設問が減り、長文穴埋め問題の設問が増えます。また、2 つの関連する文章を読んで答える問題に、3 つの関連する文章を読んで理解して回答する設問が増えます。テキストメッセージやインスタントメッセージ、オンラインチャット形式で複数名がやり取りする設問も増えます。

【資料 8】

PART 7

Questions 147-148 refer to the following text message chain.

SAM BACH	11:59
My first flight was delayed, so I missed my connection in Beijing.	
SAM BACH	12:00
So now, I'm going to be on a flight arriving in Kansai at 18:00.	
AKIRA OTANI	12:05
OK. Same airline?	
SAM BACH	12:06
It's still Fly Right Airlines. It will be later in the day but still in time for our client meeting.	
AKIRA OTANI	12:06
I'll confirm the arrival time. Do you have any checked bags?	
SAM BACH	12:10
I do. Would you mind meeting me at the door after I go through customs?	
AKIRA OTANI	12:15
Sure thing. Parking spots can be hard to find, but now I'll have extra time to drive around and look.	
SAM BACH	12:16
Yes, sorry about that. See you then!	

資料 8 がテキストメッセージで、短い会話でやり取りする問題となります。このように、より現実的なコミュニケーションが反映された問題となっています。

最後に、2016 年 5 月より公開テストの結果である公式認定証は、ABILITIES MEASURED のリスニングの項目数が 4 項目から 5 項目に増えました。「フレーズや文から話し手の目的や暗示されている意味が理解できる」という項目が増えます。

2017 年 4 月より新形式に移行する IP テストの結果であるスコアレポートについても、ABILITIES MEASURED のリスニングの項目数は、同じく 4 項目から 5 項目に増えますが、こちらについては完成次第、当方普及担当者が皆様にお知らせする予定です。

IIBC からのご報告につきましては以上となります。今後とも TOEIC Program を学内でご利用いただけますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「学生の気付きを引き出すための TOEIC® Listening & Reading Test の活用」

— 早稲田大学 商学部 教授 森田 彰 氏、早稲田大学 商学部 教授 鈴木 利彦 氏 —

早稲田大学 商学部 教授

森田 彰 氏



Profile

早稲田大学商学学術院教授。早稲田大学大学院文学研究科博士前期課程修了。東洋女子短期大学助教授から1995年に早稲田大学商学部専任講師に就任し、2003年より現職。専門は英語教育、英語史（近代）。文科省高等学校検定教科書 *Perspective: English Expression I, II* (代表著作者、2013年、2014年、第一学習社) の他、大学英語教科書の執筆多数。

第1部 学生の気付きを引き出すための TOEIC® Listening & Reading Test の活用

テストの特性を考慮し、目的を明確にして
TOEIC® L&R を活用

皆さん、こんにちは。早稲田大学商学部の英語教員、森田彰と申します。よろしくお願いいたします。

今日は、私からは本学の英語への取り組みの総論的な話をさせていただきます。そのあと、鈴木からは別の視点で、「主体的な英語学習に導く授業手法の試み」について約20分ほどお話しさせていただきます。

“My talk is divided into four parts.”という言い方でよく話を始めますが、今回も私の話は、4つで構成されています。まず、“お詫び”をして、“言い訳”を言い、ちょっとばかり“グチ”って、皆さんに“お願い”して終わりという感じです。

はじめに、“お詫び”の部分ですが、今回のセミナーのテーマは、「主体性を引き出すための TOEIC® Program の活用」です。早稲田大学商学部では、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) の問題を解説した教本を必修クラスで全学生に渡しています。そして、そのクラスの中で啓発を行うこと以外、これといった対策は行っていません。したがって、TOEIC L&R の対策としてどんなことをしているのかとご期待いただいた方々にはお応えできないのが“お詫び”ということになります。

次に“言い訳とグチ”ですが、私どもとしては対策ではなくて、TOEIC L&R を1つの位置付けをもって活用させていただいています。その活用をするためには、学生の気付きと理解が必要であるという話をさせていただきます。

最後に“お願い”に当たる部分ですが、学生の総合的運用能力を増すために、皆さんと考えていきたいと思っています。私たちもぜひ皆さんのお知恵を拝借したいと思っていますので、早稲田大学商学部の取り

組みのいくつかをご紹介させていただくことで、一緒に考えるヒントにいただけたらと思います。

では最初に、TOEIC L&R を活用するにはどうしたらよいか、もともと活用とはどういうことなのかについてお話しします。TOEIC L&R はテストですから、まず能力を測定します。そしてそれを基にして学習に関するさまざまな啓発活動が行われます。学生に対する啓発だけではなくて、学生がどういった傾向を持っているのか、得意不得意といった学生の動向を知るということもあります。そして、われわれが学生とともに、自分たちの置かれている状態に気付くことにつなげていきます。これが活用ということになります。

それを前提に、テストを実際に活用するにはどうしたらよいか。そのためにはテストの目的がどういものかをしっかりと考えておかなければいけません。どのような英語力を測るのか、そしてどのようなテストを選ぶのが大変重要になってくるわけです。言い換えれば、気付きや啓発を得るために、なぜテストという形を使わなければいけないのか。測ったスコアの使用目的を明確化しておかないといけないということになります。

テストを選んだからには、なぜそのテストを選んだのかという理由付けがしっかりとしていなければ活用はできないということになると思います。

早稲田大学商学部ではどのような目的で、どのような位置付けで、どのようなテストをやっているか。答えはもうすでにお知らせしているとおり TOEIC L&R ですが、なぜそれを使っているかをご紹介します。

TOEIC® L&R 団体特別受験制度 (IP : Institutional Program、以下 IP テスト) の位置付け

まず目的ですが、本学部では「英語統一試験」という名称で、TOEIC L&R を行っています。英語学習の成果を、そして総合力を測定するためのテストとして、英語統一試験を行っています。2000年度に開始し、当初は第1学年の11月あるいは12月にTOEFLを、第2学年にTOEIC L&R を行っていました。2008年度からはさまざまな検討の結果、第1学年、第2学年とも TOEIC L&R を使用しています。

総合力を測るテストを導入する一番大きな目的は、カリキュラムへのウォッシュ・バックを避けたいとい

うことです。範囲の限られたテストの場合、高得点を取るためには、何回も過去問をやっていくということになります。例えば、自動車の運転免許のテストなどもそうですが、決まった範囲の中で学習することになります。しかし TOEIC L&R は総合力を測るテストなので、過去問をたくさんやればよいということではありません。これはさまざまな研究が証明しています。そのため、英語学習の成果を測るためのテストとして、総合力を測定するテストを採用しようと考えました。

次に、どのような位置付けで使っているかということ、プレースメントテストです。気付きとやる気を引き出す習熟度別クラス編成のため TOEIC L&R を使っています。クラス編成は成績に直結してくるため、クラス編成の基準となるテストは信頼性の高いものでなくてはなりません。前回は成績が良かったのに、次は良くなかったでは、クラス分けの信頼性が揺らいでしまいます。採用するテストはプレースメントテストとしての指標に耐えるものでなければなりません。

このあと登壇される群馬県立女子大学の事例は、少人数精鋭の教育ということですが、私どもは1学年1000人規模の人数です。テストの成績では常に1番と1000番がいます。3回テストをやって3回とも1000番という学生が出てくる可能性もあります。しかし安定したテストであれば、順位だけではなくて、自分自身の伸びも測れることが期待できます。

そのような理由で、TOEIC L&R IP テストを英語統一試験として使っています。

【資料1】

早稲田大学2014年度商学部英語カリキュラム構成図 (新カリキュラム)



資料1は2014年度の商学部の英語カリキュラムの構成図です。当学部は、2014年度に完全習熟度別クラスに移行しました。1年次、2年次、3年次以降、

すべての英語の授業において習熟度別クラスとなりました。そのため 2016 年度ではなく、2014 年度の構成図を示しました。入学前には WeTEC (Web-based Test for English Communication) というウェブベースの英語コミュニケーション能力判定テストを使っています。これは入学から授業開始の 4 月 5 日、6 日ぐらいまでの短期間に、さまざまな作業を並行して進めなくてはならないためです。1 年次の成果を測るために、1 年次の 11 ~ 12 月、2 年次の 11 ~ 12 月に TOEIC L&R で測り、そして 3 年次にも活用しているという図式となっています。

学生の気付きと理解が必要

カリキュラムには、学生の気付きと理解がどうしても必要です。むしろ学生の気付きと自己理解を引き出すための仕組みをつくり上げていると考えています。学生の気付き、あるいは学生に正しい理解を促すには、テストの実施だけではうまくいきません。よく言われるのは、テストの点数を追いかけるだけになってしまうことです。ダイエットで体重が減るとうれいので、数値を減らすことが目的になってしまう、しかし、そうではなくて本来は健康が目的です。同様にテストの点数が目的化してしまうということになりかねません。そのためテストだけでは気付きには至りにくいと思います。かといって、授業だけでも、なかなか気付きには結びつきません。

つまりテストには客観性を、授業には主観的観点が必要です。テストで客観的な点数を出して、授業で、「ああ、この授業は頑張ったぞ」、「こういうところはしっかりやったぞ」、「自分はここが不得意だったからここを伸ばしたぞ」と主観的に確認する。客観から主観、主観から客観へというサイクルが継続的な学習環境の構築につながっています。

学年単位でリズムをつけて、日々の授業を行い、そして 11 月の終わりから 12 月に客観的なテストをして、その次の科目登録に結びつけていく。そこでまた「この授業頑張ったぞ」、「1 日も休まずに出たぞ」、「スピーキングの授業でどんどん発言したぞ」という主観的な経験を積んで、さらに客観的なスコアを得ていく。そのようなリズムをつくっていくことが、私たちの目指しているところです。

最後に、英語の総合的運用能力を育成するにはどう

したらよいか、私たちの例をご紹介したいと思います。これは学ぶ場と使う場の 2 つの場のバランスをとっていくという考え方です。学ぶ場を整理する。たとえば習熟度別クラスや、必修と選択のバランスをとったりして、学ぶ場を提供します。

同時に使う場を創出する努力をしています。たとえば General Tutorial English、あとで鈴木からもご説明させていただきますが、学生が 4 人 1 グループになって 1 人のネイティブの教員とやりとりをします。もう 1 つ学内では International Community Center (ICC) という留学生との異文化間交流のためのコミュニティがあります。

学外については、豊富な留学制度があり、現在 84 力国約 500 の協定校と交流しています。2013 年から 2015 年の間に派遣した留学生の数は 3,000 人を超えています。2016 年度春学期には、5,066 人の留学生が学んでいます。このような豊富な留学制度を用意して、学ぶ場の創出を行っています。

特にご紹介したいのが、International Community Center (ICC) の活動です。先ほど申し上げたように留学生が約 5,000 人学んでいます。早稲田大学の学生は大学院生も含めて約 5 万人いますので、それほどの数ではないと思うかもしれませんが。しかしグローバル化には、日本を出て行くだけではなく、日本に来る同世代の学生たちと交流する場もとても大切なものだと考えて、ここ数年、ICC を使う場として活用しています。

まとめますと、テスト本来の目的とその活用を考えて、学習した成果を客観的に測る信頼性の高いテストとして TOEIC L&R を選び、学生の気付きと自主性を促す仕掛けの 1 つとして TOEIC L&R を活用しています。特に、近年とても大切だと考えているのが、使う場の創出と、英語に対する必要感です。やはり「英語は大切なのだ」、「英語が使えるようになるとすばらしい」ということがわかる、実感する場の創出を心がけています。

早稲田大学 商学部 教授

鈴木 利彦 氏



Profile

早稲田大学商学大学院教授。早稲田大学教育学部英語英文学科卒業後、英国ランカスター大学にて M.A.、Ph.D. を取得。小・中・高等学校英語教諭、上智大学一般外国語教育センター常勤嘱託講師などを歴任後、2008 年に早稲田大学商学大学院専任講師に就任し 2016 年より現職。専門は言語学（語用論）、英語教育。NHK ラジオ第二放送講師担当（「英語ものしり倶楽部」内、「おとなのための Grammar 講座」2009.7-9、2010.7-9（再放送））。上智大学国際言語情報研究所客員研究員。

第 2 部 主体的な英語学習に導く授業手法の試み

授業の一部に Active Reading を導入

早稲田大学商学部教授の鈴木利彦と申します。私は、具体的にどのような授業の取り組みを行っているのか、事例をお話しさせていただくとともに、2015 年度に延べ 50 名ほどが TOEIC® Speaking & Writing Tests（以下、TOEIC® S&W）を受験して、どのような結果が出たかを中心に説明します。

まず、私は、大学での英語教育は先生や教科書から教えてもらうという受動的な学習ではなく、将来の目標を見据えたうえで能動的に学習することが必要だと考えています。自ら学習の課題に気付いて、その課題を発見していく。自らの課題と方向性に気付くことがない限り、英語力は伸びないと考えます。

したがって、大学の英語の授業には、Active Learning（アクティブ・ラーニング）、もう 1 つ専門的な言葉を使うと、Autonomous Learning（オートノマス・ラーニング）の必要性、それから主体的な英語学習につながる指導の必要性が考えられます。

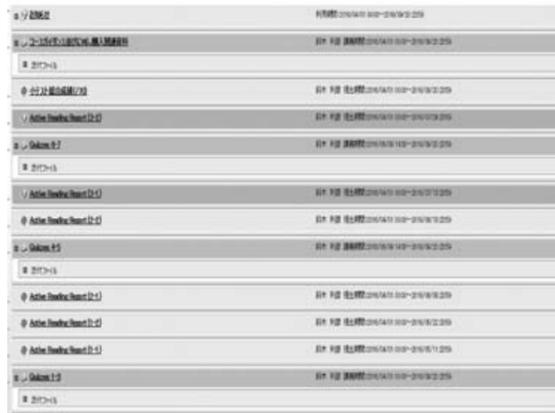
まず私のリーディングの授業の事例についてご紹介します。これは、英字新聞を読む授業で、主に『The Wall Street Journal』などの英字新聞を使っています。往々にしてリーディングの授業では、教員が解説して、それを学生が聴いているという座学の授業になりがちです。アクティブなラーニングの場を設定したいということで工夫をし、授業の一部分ですが、Active Reading を導入してみました。

やり方は、まず予習ではオンライン上のテンプレートを使用して、英字新聞記事の本文を写し、単語・熟語調べと日本語訳を行います。早稲田大学の LMS (Learning Management System) Course N@vi に「予習編」を提出します。

そして、授業で対象の記事を扱います。英字新聞の記事の単語・熟語、構文、日本語訳や内容に関して担当教員が解説します。無作為に 1 パラグラフごとに学生の提出物を抽出し、添削を授業内で行います。

復習として、授業後に担当教員が LMS に「モデル訳」を掲載し、それをもとに受講生は「復習編」を提出します。

【資料 2】



資料 2 は早稲田大学 LMS Course N@vi の画面で、春学期に使用したものです。

テンプレートは、英語の部分を書して、それから単語調べをして、日本語訳をする。私のモデル訳も、似たテンプレートを使用します。

英語を書し、単語調べをして、日本語訳をする。そして授業を受けてもらい、「この部分はこのような日本語にしないといけない」とか、「この構文はこのようにとらえなければいけない」といった解説をし、モデル訳を LMS に掲載します。受講生は授業を聴いて、LMS に掲示されたモデル訳を見て、自分自身で主体的に添削していきます。「ちょっと単語調べも甘かったな」とか、「こういったところを足してみる」とか、「ここは読みが少し違っていたな」など、ワードの編集機能を使って、復習したということがわかるようにして提出をします。

授業を通して英語の学び方、英語学習の楽しさに気付く

【資料 3】

受講生の感想 (1)
私は前期にも鈴木先生の講義を受講していたので、一年間を通して鈴木先生から英語を教わることになりました。他にも英語の講義を受講したことがありますが、少々受動的な面がある私にとって毎週のように予習・復習の課題を与えてくれる当講義は、最も英語学習に向かわせてくれる授業であり受講して本当によかったという思いです。
来年度四年生になってからも英語の授業をとることになる場合は、積極的に鈴木先生の講義を選択したいと思っています。もし見かけたら声をかけていただけたら嬉しいです。
一年間、ありがとうございました (#^_^#)

授業で、どのような感想を学生が持ったかを紹介します。学生が書いてくれたものですので、一部分だけ切り取るわけにはいきませんから、そのまま提示します。主体的な学びという本日のテーマに合う部分は、「少々受動的な面がある私にとって毎週のように予習・復習の課題を与えてくれる当講義は、最も英語学習に向かわせてくれる授業であり受講して本当によかったという思いです」の部分です。

私がこう思いなさいと指導したわけではなくて、実際にこのような取り組みをしてどのような感想を持ったか、1 人目の具体的な例として紹介しました。

リーディングの授業は、インタラクティブな授業ではなく、私が話して、学生たちはメモを取ったり、ノートを取ったり、講義形式になりがちですが、こういったひと工夫によって、「自分自身でも主体的に学んだのだ」と思ってくれたらうれしいです。

【資料 4】

受講生の感想 (2)
一年間ご指導ありがとうございました。
この授業を受ける前と今では、英語に対する考え方が変わったかなと思います。この授業を通して、知っている単語でも、辞書の一番下まで調べることで予想外の意味が見つかったりと、新しく学ぶことがたくさんあり、英語を勉強することの楽しさを知りました。また、今まであまり関心がなかった世界の時事問題を英語を通じて学び、基本の知識を身につけたり授業で取り扱った記事の続報を調べたりと、英語だけでなく日々のニュースにも関心を持つようになりました。もっと早く一年生の頃からこのように隔々まで勉強する楽しさに気が付いていればもっとたくさんのご事を大学で学べたのになと少し後悔しています。
せっかく辞書を読み込んだり興味のあるニュースを調べるクセがついたので、ここで終わりにしないでこれからも自主的に継続していきたいです。勉強は楽しくてもやっぱり英語は難しく、最後の課題でも間違いがたくさんありました。単語だけでなく、文章の繋がりや構成を読み取る力も伸ばしていきたいです。ゲストスピーカーのお話も含め、自分の進路について考える良いきっかけとなりました。この授業を受けることができてよかったです。これでもう先生の授業が終わりだと思うとなんだか寂しいしまだまだ教えていただきたいと思っているので、もしもまた機会があれば宜しくお願いします。一年間本当にありがとうございました。

これは 2 人目の感想です。「この授業を受ける前と今では、英語に対する考え方が変わったかなと思います」。大学 2 年生以上なので、かなり長い間英語の授業を受けていますが、それでも大学の英語の授業を受けて、「英語に対する考えが変わった」とまで言ってくれています。

「新しく学ぶことがたくさんあり、英語を勉強することの楽しさを知りました」。勉強は楽しいか、そうでないかと言ったら、だいたい後者の方が多いですが、こういった授業を通じて、また英字新聞というマテリ

アルもよかったと思いますが、いろいろな気付きや学びがあったと、書いてくれています。

「このように隔々まで勉強する楽しさに気が付いていればもっとたくさんのご事を大学で学べたのにと少し後悔しています」と、この英語の授業で、大学での勉強に対する考えが変わったとまで言ってくれました。

「ここで終わりにしないでこれからも自主的に継続していきたいです」。これが一番大事だと思いますが、こういった活動や授業を通じて、学ぶことの重要性とか、どのように学ぶべきかを主体的に学びとってくれています。

自分の考えを主体的に表現する学習

次に、ライティングの授業はどのようにやっているか、どのように学生の主体性を育てるように取り組んでいるかをご報告します。意図的にオートノマス・ラーニングやアクティブ・ラーニングを意識してやっているわけではなくて、ライティングなどのプロダクティブ・スキルは、自分の考えを主体的に表現するわけですから、主体的に自らが学んで、表現していくプロセスを踏んでいく必要があります。したがって授業のデザインとしても、好むと好まざるとにかかわらず、主体的な学習をしてもらう場にしないといけないということです。まずそれを申し上げておきたいと思います。

授業では 1 つの学期に 3 つほど練習エッセイを書いてもらい、最後は期末試験で 1 つのエッセイを書いてもらいます。練習エッセイを書いてもらうプロセスは、資料 5 に書いてあるとおりです。

【資料 5】

Autonomous Learning in Process Writing

- A) Idea generation
- B) Brainstorming
- C) Planning
- D) (Input for essay writing)
- E) 1st draft writing – Submission to Criterion [1]
- F) 2nd draft writing – Submission to Criterion [2]
- G) Final draft writing
- H) Submission to the instructor

まずは Idea generation。タイトルとインストラクションが与えられます。それに対して考えを出し、Brainstorming やグループでいろいろな考えを出すと、「こういう考えもあるのか」、「もしかしたら考えが狭かったかもしれない」など、他の学習者たちとの交わりによって、いろいろなものの見方、考え方、視点を互いに学び得る場にすることができます。

そして、また個人作業に戻って、エッセイの Planning を行います。どのようにしたらエッセイを論理的に、ロジカルにつくり上げることができるかを、Planning してもらいます。もちろん教師や、教材からの学びという部分もないと英語力は伸びないので、そういった部分も入れていきます。

次に資料 5-D の (Input for essay writing) 。括弧にしたのは、主体的な部分ではないということです。たとえばインターネットのマテリアルとか、大学に行く理由を調べてみると、日本語もあるし、英語もある。それらを主体的にエクスポアーしてもらう。いろいろなものを探して読んでもらって、さまざまな英語表現をインプットしてもらいます。それを自分たちのエッセイというプロダクトに活かしてもらう、そういう過程です。

それから 1st draft を書いて、Criterion というコンピュータ・プログラムを使い、1 回目の提出をする。Criterion は、スコアといろいろなフィードバックをつけて返してきます。それを見て主体的に自分の直さなければいけない部分、足りなかった部分、課題を発見して、書き直して、もう一度 Criterion に出してみる。それで良くなったか、そうでないのか、いろいろなことをまた試して、最終的に私に提出するための Final draft を書いてもらって、先ほどお見せした Course N@vi を使って私のところに提出をする。その後は私が涙を流しながら添削をし、採点するという作業に移っていくわけです。そこに行き着くまでに主体的な学びをしてもらうことになっています。

Brainstorming では 4~6 人ぐらいのグループになって、たとえばこれは「リーダーになった方がいいのか、それともメンバーでいるのがいいのか」というテーマで、リーダーになることの良い面、良くない面、メンバーでいることの良い面、良くない面を話します。グループとしてどんな結論に至ったのか、その理由は何か、パラグラフ程度でまとめてもらって、これも LMS Course N@vi を使ってその掲示板にディスカッションとして投稿してもらいます。それをクラ

ス全員でシェアをして、最終的にはクラス全員でいろいろなものの見方、視点をシェアできるように努力をしています。

Criterion には Planning tool が豊富にそろっています。Thesis Statement (シーシス・ステートメント)、一番大事な自分の意見、そして各パラグラフを書くうえでの Topic Sentence (トピック・センテンス) と Supporting Sentences (サポーティング・センテンス) を書くためのまとめをツールに書き込みながら Planning を行っていきます。

エッセイを提出すると、Criterion の採点とともに、どのようにオーガナイズされたかなど、ロジカルな面での分析をしてくれます。これはイントロダクションですが、ここにイントロダクトリー・マテリアルがあって、それからシーシス・ステートメントがある。ボディパラグラフに関してはトピック・センテンスがあり、サポーティング・センテンスがあると、このようにアナライズ、分析してくるわけです。これ以外にも、ここは“the”が必要だとか、ここは接続詞を入れる必要があるとか、そういった部分もフィードバックをしてくれます。

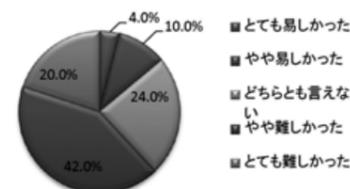
ライティングは、われわれが見る難しさもありますが、どのように教えるかという難しさもあります。その点でこの Criterion というツールは、学生が主体的に自らのライティングに関して取り組むことを可能にしてくれるプロダクトツールです。

アンケート結果から見る TOEIC® S&W の効果

昨年、TOEIC S&W を延べ 50 名が受験しましたが、そのアンケートの結果をご紹介します。

【資料 6】
TOEIC S&W アンケート

Q1. 難易度はどうでしたか？



難易度	回答数
とても易しかった	2
やや易しかった	5
どちらとも言えない	12
やや難しかった	21
とても難しかった	10
回答なし	0
合計	50

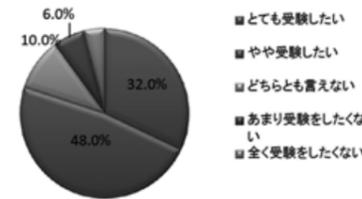
受験数 2015.6月 35名、
2015.11月 20名
※受験者 55名に対しアンケート
回収枚数 50枚

「難易度はどうでしたか」(資料 6) という質問に、「やや難しかった」21 名、「とても難しかった」10 名と、過半数の学生が難しさを感じています。この結果から、チャレンジングなテストであることがわかります。また、TOEIC S&W は、学生がそれぞれの課題を感じさせてくれる良いテストであったと評価してくれたと考えています。

【資料 7】

TOEIC S&W アンケート

Q2. また受験したいですか？



回答	回答数
とても受験したい	16
やや受験したい	24
どちらとも言えない	5
あまり受験したくない	3
全く受験したくない	2
回答なし	0
合計	50

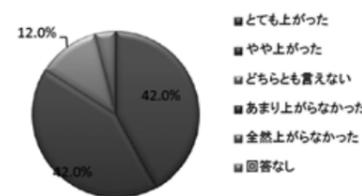
受験数 2015.6月 35名、
2015.11月 20名
※受験者 55名に対しアンケート
回収枚数 50枚

次に「また受験したいですか」(資料 7) という質問ですが、二度と受験したくないという人はほとんどいません。「とても受験したい」、「やや受験したい」がほとんどでした。したがってチャレンジングでもあるし、リウォーディングでもある。この 2 つが非常に大きなキーワードではないかと考えます。

【資料 8】

TOEIC S&W アンケート

Q3. 英語学習のモチベーションは上がりましたか？



モチベーション	回答数
とても上がった	21
やや上がった	21
どちらとも言えない	6
あまり上がらなかった	0
全然上がらなかった	2
回答なし	0
合計	50

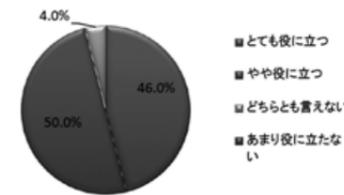
受験数 2015.6月 35名、
2015.11月 20名
※受験者 55名に対しアンケート
回収枚数 50枚

「英語学習のモチベーションは上がりましたか」(資料 8) では、「とても上がった」、「やや上がった」が過半数を占めています。

【資料 9】

TOEIC S&W アンケート

Q4. 英語で仕事や生活する上で役に立つテストだと思いますか？



有用性	回答数
とても役に立つ	25
やや役に立つ	25
どちらとも言えない	2
あまり役に立たない	0
全然役に立たない	0
回答なし	0
合計	50

受験数 2015.6月 35名、
2015.11月 20名
※受験者 55名に対しアンケート
回収枚数 50枚

「英語で仕事や生活する上で役に立つテストだと思いますか」(資料 9) には、「とても役に立つ」、「やや役に立つ」が過半数を占めています。自らが今後ビジネスの世界で英語を使うにあたって、この TOEIC S&W は非常に良いテストであるという評価であったと言えます。

自由記述のアンケートでは、「TOEIC S&W は、TOEIC L&R では測ることのできないスピーキング力やライティング力が測れるので、より実践的でとても有意義なテストだと思う。また受験したい」とか、「英語学習のモチベーションを上げるととても良い機会になった」、「今後のスピーキングやライティングにより重点を置いて勉強していきたいです」といった感想を書いてくれました。

TOEIC L&R のスコアから見て TOEIC S&W でどれくらいのスコアが取れるかという予測値がありますが、ライティングにおいてはそれを上回る学生が多かったです。これは素晴らしい結果です。

TOEIC S&W を受験した学生は、仕事で英語を使うことを意識していると思います。大学卒業後に必要な英語力、仕事における英語を試すにあたり、高いモチベーションを持って真剣に取り組んだと考えられます。

今回の結果から見えた成果、課題、方向性ですが、まず成果としては、TOEIC L&R に基づいたプレイズメントの効果の実証、学生のやる気、主体性を引き出す効果、必修であるライティングの授業の効果の実証、それから学生が主体的に取り組んだ TOEIC S&W 受験での成果が挙げられます。

課題としては、スピーキングの点数がライティング

に比べると若干低めだったので、スピーキング力の向上につなげていく方策の必要性を感じました。今後の方向性としては、TOEIC S&W を受験するためのモチベーションをより多くの学生に持たせたいと思います。

先ほど本学の森田からも話がありましたが、本学では TOEIC L&R をプレイズメントテストに使っており、さまざまなやる気を引き出しています。さらにチャレンジングな TOEIC S&W のテストを受験させることによって、英語 4 技能の実力を磨いてほしいと考えています。

質疑応答

質問: 今回は自主性がテーマですが、自主性が高まらない学生もいると思います。そのような学生への具体的な対応方法があれば教えてください。

森田: 幸せな家庭は一樣に幸せだが、不幸せな家庭はそれぞれに理由があると言われるように、なかなか自主性を持たない学生に対する処方箋を的確につくことは難しいと思います。ではどうしたらいいかというと、やはり私たち教師の側が想像力をたくましくすることが大切だと思います。

私事になりますが、私は中学・高校と系属校に通っていたのですが、高校時代は不真面目な学生でした。でも、まったく自主性を持たない科目もありましたが、やたら自主的に活動していた科目もあったことを覚えています

ですから、学生をもっと信用してほしいと思います。そして、学生が目を見開いて、先ほどご紹介したICCのプログラムや留学制度のプログラムなどに挑戦してみたいと思ったときに、そのようなプログラムを提供できるようにするわれわれの努力が必要です。今、TOEIC Programには、どんなテストがあるのかなどの知識を持って、アドバイスができることがとても大切なのです。学生が何を考えて、どんなことをしたいのか、想像力をたくましくして考えることが必要です。

質問: 学生数が多いため、一人ひとりをサポートするのは難しいと思います。その上でなるべく多くの学生をサポートするために工夫していることがあれば教えてください。

森田: 習熟度別クラスも、1学年1000人規模の大きな大学にとってはかなりきついことです。一人ひとりということになると、これもまた難しいと思います。いくつか取り組みがありますので、あとで鈴木のほうからチュートリアル・イングリッシュなどを含めてご紹介できればと思います。

質問: 1～2年生にTOEIC L&Rを実施しているとのことですが、目標としているスコアはありますか。またTOEIC L&Rなどを進級要件や卒業要件とする大学

がありますが、それに対する先生方のお考えをお聞かせください。

森田: 目標については現在検討中で、できるだけ早く到達目標の設定をしたいと思っています。しかし卒業要件、それから進級要件にするのは難しいと考えています。なぜならば、早稲田大学商学部では英語は選択科目であって必修科目ではありません。したがって英語を取っていない学生たちもいます。さまざまな学生の事情があります。

質問: 昨今スピーキングやライティング技能を含めた4技能入試など4技能統合型学習が推奨されていますが、先生方はどのようにお考えでしょうか。

鈴木: これは私見ですが、TOEIC L&Rに加えてTOEIC S&Wが開発され、導入されていることを考えると、ニーズがあるということだと思います。大学入試もちろんですが、ビジネスの世界で海外に赴任してバリバリ仕事をしていくためには、L&Rだけでなく、S&Wの技能が非常に求められるため、このテストが開発・導入されています。

早稲田大学商学部としては、TOEIC L&Rの今までの実績を踏まえた上で、これからどんどんTOEIC S&Wの方も推奨していきたいと考えていますので、高校の段階でも実力があり、そしてモチベーションの高い生徒さんには、ぜひこの英語4技能の試験の受験を推薦していただければと思います。われわれも英語4技能というものをこれからの非常に大きな課題としてとらえています。

質問: 早稲田大学は大規模総合大学ですが、英語教育において他学部と連携して行っていることがあれば教えてください。

鈴木: ご質問どおり早稲田大学は非常に大きな規模の大学です。他学部と連携したり、横断的な取り組みをするのは簡単なことではありません。しかし、最近、グローバル・エデュケーションセンターが、全学的な教育を行う場として、どんどんプログラムの開発・改善などを進めています。そのグローバル・エデュケーションセンター、GECが運営していることのひとつに、チュートリアル・イングリッシュというプログラムがあります。これは4人1組で英語、特にスピー

キング、リスニングを中心にした授業ですが、学部を問わずいろいろな学部の学生たちが一緒になって、少人数で授業を受けるという形態になっています。これがひとつ例として挙げられるのではないかと思います。

グローバル社会に対応しうる英語 4 技能育成を目指して

群馬県立女子大学
国際コミュニケーション学部 教授
細井 洋伸 氏



Profile

早稲田大学教育学部英語英文学科卒業。神奈川県立高等学校英語科教諭を経て、イリノイ大学修士課程、マギル大学博士課程修了。PhD (言語学)。その後、鹿児島県立短期大学助教授を経て、現在、群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部教授。

第1部 群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部の英語教育プログラム

国際コミュニケーション学部の英語力

本日は、「主体的な学びを引き出す TOEIC® Program の活用」というテーマの下に、本学部の事例研究を発表させていただきます。本学部では英語教育の目標に、「グローバル社会に対応しうる英語 4 技能の育成を目指す」ことを掲げています。その目標を達成するために、学生の主体的な学びをいかに引き出すか、そして TOEIC Program をどのように有効活用しているかをお話しします。

【資料1】

第1部 群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部の英語教育プログラム

概要

1. 国際コミュニケーション学部の学生の英語力
2. 本学部英語カリキュラムの方針と特徴
3. 海外留学支援プログラム
4. TOEIC Programデータに見る本学部学生の英語力

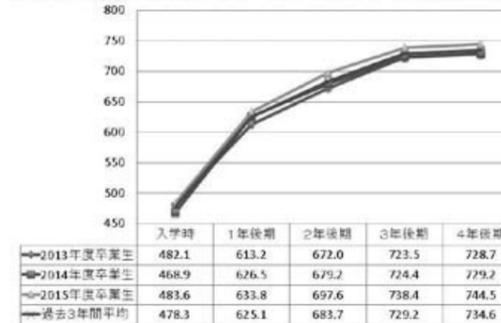
全体を2部に分け、第1部では、本学部の英語教育プログラムをご紹介します。第2部では、本学部の英語教育で TOEIC Program をどのように活用しているかを説明させていただきます。

第1部は、1. 国際コミュニケーション学部の学生の英語力、2. 本学部英語カリキュラムの方針と特徴、3. 海外留学支援プログラム、4. TOEIC Program データに見る本学部学生の英語力、このような形で発表いたします。

まず、本学部の学生の英語力です。資料2のグラフは過去3年間の卒業生の、その時々でのベストスコアの平均点の推移です。本日の発表で、平均点を出

【資料2】

1. 国際コミュニケーション学部の学生の英語力 過去3年間の卒業生の(ベストスコア)平均点の変遷



すときは、基本的にそれぞれの学生のその時点でのベストスコアの平均ということをご確認ください。

今年3月に卒業した2015年度卒業生は、入学から卒業までの4年間に TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) のスコアが260.9点上がっています。2014年度生で260.3点、2013年度生で246.6点、過去3年間の平均スコアは734.6点となっています。

【資料3】

1. 国際コミュニケーション学部の学生の英語力

本学部	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部	リスニング	リーディング	合計	スコアの伸び
大学1年生		273.0	205.3	478.3	256.3
大学4年生		406.7	327.9	734.6	

過去3年間(2013~2015年度)の卒業生のベストスコア平均

他大学	語学・文学系(英語専攻)	リスニング	リーディング	合計
大学1年生		261	193	454
大学4年生		329	243	572

企業・団体	海外留学経験者(英語専攻と同等以上の英語力)	リスニング	リーディング	合計
		363	296	659

海外留学経験者(英語専攻と同等以上の英語力)	リスニング	リーディング	合計
	391	323	713

国際コミュニケーション学部「TOEICプログラム」DATA & ANALYSIS 2014より

本学の学生と他大学、企業の方々の比較ですが、本学部の大学1年生はリスニングが273.0点、リーディングが205.3点、合計478.3点となっています。

他大学の学生さんの場合は、その都度受ける学生が違うので、なかなか一概に本学部の学生のスコアと比較できませんが、参考までに語学・文学系で英語専攻の大学1年生のリスニングのスコアが261点、リーディングが193点で、本学部生の方が若干いいぐらいです。ただ4年生になると、本学部の4年生の平均はリスニングが406.7点、リーディングは327.9点、合計が734.6点です。「TOEIC プログラム DATA & ANALYSIS 2014」によると、英語専攻の大学4年生

のリスニングが329点、リーディングが243点、合計572点となっています。

企業・団体の場合は、英語を主言語とする国に1年以上いた方々のスコアが、リスニングが363点、リーディングが296点、合計659点でした。英語を主言語とする国に2年以上いた方々は、リスニングが391点、リーディングが323点、合計713点ということで、これらと比べましても本学部生はそれほど遜色ありません。

国際コミュニケーション学部 英語カリキュラムの方針と特徴

次に本学部英語カリキュラムの方針と特徴についてです。まず、本学の国際コミュニケーション学部の説明をいたします。群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部は、2005年度に1学年定員60名規模の学部として創設されました。学則にも、「実践的な英語力、高度なコミュニケーション能力」が教育の目的の1つとして挙げられています。学部は、2年生より、英語コミュニケーション課程、国際ビジネス課程の2つの課程に分かれますが、どちらの課程の学生も同じ英語教育を受けることになっています。

TOEIC Program と関連するカリキュラムの方針として、「TOEIC L&R 800点計画」があります。創設2年目から学生全員が卒業までに TOEIC L&R 730点以上取得することを目指してきました。730点というのは、皆様もよくご存じのように、どのような状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている、あるいは文科省であれば、学校の先生方にこれだけの英語力をつけてもらいたいという基準となっています。

ただ730点を取った学生が、「730点を取ってしまったからもういいや」と思ってしまう場合が出てきたため、2014年度、学部の創設10周年を機に、全員が TOEIC L&R を730点以上、そして少しアンビシャスですが、学年平均としては TOEIC L&R 800点以上を目標にすることを方針としました。後ほどお話ししますが、学年平均の目標の他2016年度から学生が個々に目標値を設定することも始めています。

また、TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC® S&W) も導入し、現3年生が1年生のときから全員が年1回受験するという方針で TOEIC S&W

を受験しています。

一方、これまでお話ししたことと少し矛盾するかもしれませんが、本学部の英語プログラムは、あくまで英語の総合力、高度な運用能力をつけることが目的であり、TOEIC L&R のスコアを上げることが目的ではありません。その点に関してはご承知おきください。

カリキュラムを整備するにあたって目指したことは、まず1番目に、4技能分野の科目をバランスよく配置し、カリキュラム全体としての体系的な確保する、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4つをバランスよく学生に勉強させることです。次に文法と発音を重視することです。言葉を分析的に見る科目である英語学系の科目も設置しています。このように、TOEIC L&R 対策が中心とならないようなカリキュラムを整備してきました。

カリキュラム(資料4)左側の部分を、トラックと呼んでいます。この中で、カリキュラムのコアとなるのが聞く(リスニング)、読む(リーディング)、話す(スピーキング)、書く(ライティング)の4つです。1年生から4年生まで、連続性、一貫性を保ちながら展開できるように考えています。各トラックには、それぞれトラック・コーディネーターとして教員を1人ずつ配置しており、絶えず連続性と一貫性をチェックしています。

なお、この4つ以外に、文法、発音などの授業も行っています。TOEIC L&R 対策の講座も一応設置していますが、1年生の前・後期に1コマだけ必修の授業があるのみです。2年生も前・後期に、自律学習のTOEIC Lab という形で TOEIC L&R 対策の講座を必修

【資料4】

2. 本学部英語カリキュラムの方針と特徴

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
言語知識	英語のしくみ							
文法	Grammar I	Grammar II	Grammar III					
発音	Pronunciation I	Pronunciation II						
話す	対方向	IP Communication I	IP Communication II	Debate & Discussion I	Debate & Discussion II	Advanced Debate & Discussion		
	対方向					Presentation I	Presentation II	
聞く	Listening I	Listening II	Listening III	Listening IV				
読む	Reading I	Reading II	Reading III Extensive R. I	Reading IV Extensive R. II				
書く	Paragraph Writing I	Paragraph Writing II	Essay Writing I	Essay Writing II	Advanced Writing			
TOEIC	TOEIC I	TOEIC II TOEIC SW	TOEIC Lab I	TOEIC Lab II	TOEIC 自律学習			
上級スキル	正式				Current News Issues I	Current News Issues II		
	英検準				English in Drama I	English in Drama II		
	その他				観光英語	Adv. IP Communication business English	Translation Studies I	Translation Studies II
選修クラス	<前期> HP Reading I・II・III HP Business Writing I・II・III				<後期> HP Listening I・II・III HP Journalism English I・II			

として設けています。3年生以上は、特に必修科目はなく、興味のある学生が自律学習するという形で行っています。そして、今年度より TOEIC S&W にも慣れさせるため、1年生以上に、後期から TOEIC S&W というコースを選択科目として全員が取れる形で、新たに設けました。

英語カリキュラムの特徴は、①緩やかなテーマ中心のカリキュラム編成、②少人数制、③高い英語ネイティブ教員率、④ TOEIC Program を用いた習熟度別クラス編成、⑤ TOEIC Speaking & Writing Tests、⑥ 100 万語英語多読プログラム、⑦英字新聞で英語を学ぶ Current News Issues、⑧ Honors English Program と英語基礎自律学習、⑨英語資格試験による単位認定、⑩夏季集中講座 STRIPE となっています。カリキュラムの特徴の中には TOEIC Program と関係するものも見られます。

2-① 緩やかなテーマ中心のカリキュラム編成

まず、緩やかなテーマ中心のカリキュラム編成についてお話しします。本学部ではリーディングとリスニングを4クラスに分け、テーマベースの教科書を使って教えています。一番上のクラスのα(アルファ)は「Mosaic 1&2」、中間のβ(ベータ)、γ(ガンマ)は「NorthStar 3&4」、一番下のクラスのδ(デルタ)が「Interactions 1&2」を教科書に使っています。一定時期に同じテーマで文章を読み、音声を聞くことによって、各テーマに関する背景、知識が非常に高まること、言語的にも関連性のある語彙や表現に触れることによって、より英語の語彙や表現が定着しやすいことも踏まえて、このようなものにしました。

「緩やかなテーマ中心の」という表現を使っている理由は、リスニング、リーディングは全体を4分割に分けていますが、ライティング、ディベート&ディスカッションなどの他のクラスに関しては、全体を6分割しています。そうすると、たとえば6分割の上から2番目のbクラスでは、リーディングやリスニングのα(アルファ)のクラスとβ(ベータ)のクラスから、それぞれ半分ずつがbクラスに来てしまい、1つのクラスに違った教科書を使っている学生がいると

いう状況になります。それでは厳密な意味でテーマ中心のカリキュラムのクラスができなくなるので、なるべくリーディングやリスニングのテーマに関連した題材をライティングやディスカッションのところでも使ってもらおうという、緩やかなテーマ別のカリキュラムにしました。

また、先ほど触れたように分野内の体系的な確保のために、トラック・コーディネーターを配置しています。

【資料5】

2. 本学部英語カリキュラムの方針と特徴

① 緩やかなテーマ中心のカリキュラム編成2

年次	レベル	前期	後期
1年次	上級	teamwork and competition, gender and relationships, health and leisure, etc.	technology, money, creativity, etc.
	中級	advertising, fraud, extreme sports, language, etc.	storytelling, marriage, climate change, punishment, etc.
	初級	school life, nature, community, etc.	home, world culture, health, entertainment and media, etc.
2年次	上級	language and learning, gender and relationships, aesthetics, mind, etc.	working, art and entertainment, conflict and reconciliation, etc.
	中級	media, overcoming obstacles, medicine, animal intelligence, etc.	longevity, philanthropy, education, food, etc.
	初級	education, city life, business, professions, etc.	lifestyles, language and communication, tastes and preferences, etc.

資料5がテーマ中心のテキストの内容です。日常的なテーマとして、Sports、School Life、アカデミックなテーマとして Gender、Nature、Media、Business なども入っています。

2-② 少人数制

次の特徴は少人数制です。IP コミュニケーション、ライティングは、主に英語の運用能力を高めるためのクラスで、学生の話す機会を多くしたり、教員がきめ細かく添削指導を行っており、クラス全体を6分割して12~13名程度になっています。それ以外のクラスはだいたい4分割で18~20名程度になっています。

2-③ 高い英語ネイティブ教員率

高い英語ネイティブ教員率も特徴の1つです。専任教員は学部全体で8名ですが、そのうちネイティブの教員は2名です。それ以外に研究機関の外国語教育研究所の教員、そして非常勤講師の教員、合わせて14名のネイティブ教員がおり、英語のネイティブ教員率は授業全体の70~80%程度です。さらに、英語の運用能力を高めるようなコミュニケーションのクラスやディベートのクラスでは、ほぼ英語ネイティブが教えています。日本人教員はどちらかというと、リーディングやグラマーを担当しています。

学生のアンケートでは、ネイティブの教員だけではなく、日本人の教員に学ぶ利点を挙げる学生もいるので、日本人の教員がいることも大切だと思っています。

2-④ TOEIC® Program を用いた習熟度別クラス編成

次に、TOEIC Program を用いた習熟度別クラス編成です。他大学でも導入していると思いますが、本学は多様な学生を受け入れることを目指し、さまざまな入試形態を導入しています。そのため、入学する学生の英語力は非常にばらつきがあり、それぞれの学生のレベルに合った授業を提供するために、TOEIC Program を用いてプレースメントを行っています。

1年生に関しては、入学後すぐ、それから7月、12月、2~4年生に関しては7月、12月に TOEIC L&R IP テストを受験しています。TOEIC S&W は、1~3年生の11月または12月に受験し、プレースメントを実施しています。主に英語学系のクラスは3分割にわけており、英語のランゲージのクラスに関してはだいたい4分割、または6分割という形になっています。

2-⑤ TOEIC® Speaking & Writing Tests

次は TOEIC S&W です。英語4技能のバランスの取れた習得に向けて、学生のスピーキング力とライティング力を TOEIC S&W を使って、われわれ教員も学生もモニターすると同時に、プレースメントにも利用しています。現3年生が1年生のとき、2年前から全員受験しています。

2-⑥ 100 万語英語多読プログラム

100 万語英語多読プログラムも行っています。第2部でも触れますが、本学の学生は、4年生の卒業時ではリーディングのスコアがリスニングよりも80点ぐらい低くなっています。これを踏まえ、リーディング力を伸ばすことを目指して、卒業までに全員が100万語を読むプログラムを始めました。高い英語力を身につけるための効果的な方法の1つに、大量の英文に触れることがあげられます。読み方としては、辞書なしでもわかるものを読む。一語一語読むのではなく、ある程度のスピードで意味のまとまりをつかみながら読んでいく。このような形で英語多読プログラムを実施しています。

【資料 6】

2. 本学部英語カリキュラムの方針と特徴
⑥ 100万語英語多読プログラム(2)

- 参考資料
- 『めざせ100万語！読書記録手帳』(SSS英語学習法研究会著 コスモピア 2005年)
 - 『めざせ100万語！多読で学ぶSSS英語学習法』(http://www.seg.co.jp/sss/)
 - 『英語多読完全ブックガイド[改訂第4版]』(古川昭夫他著 コスモピア 2013年)
 - 『快読100万語！ペーパーバックへの道』(酒井邦秀著 筑摩書房 2002年)

この英語多読プログラムをつくる時に参考にしたのが、資料6の参考資料です。SSS 英語学習法研究会をかなり参考にさせていただいています。

【資料 7】

Level 3	Macmillan: Readers Elementary
	Oxford: Proficiency Stage 3
	Oxford: Bookworms Stage 3
	Penguin: Readers Level 3
	Cambridge English: Readers Level 3
	Rosid Dahl: The Magic Finger, Two Trot, The Chariffs and the Polly and Mr. Fantastic, Mr. Fox
	IBO/Yohaa Ladder Series Level 2
	Macmillan: Readers Pre-Intermediate
	Oxford: Proficiency Stage 4
	Macmillan: Readers Intermediate
Level 4	Oxford: Bookworms Stage 4
	Oxford: Proficiency Stage 6
	Penguin: Readers Level 4
	Oxford: Bookworms Stage 5
	Cambridge English: Readers Level 4
	Brian W. Fowle: My Humorous Japan Series, My Humorous World Series
	Rosid Dahl: Charlie and the Chocolate Factory, James and the Giant Peach
	Laura Ingalls Wilder: Little House Series
	IBO/Yohaa Ladder Series Level 3 & 4

資料7が実際に学生に読んでもらうために置いている Graded Readers の一覧です。これも古川昭夫氏ほかの『英語多読完全ブックガイド』から、参照しています。

単純に「4年間に100万語読もう」と言っても、学生もなかなかペースがわからず、いろいろな意味で難しい。そこで在学中に継続して、バランスよく多読するために、1年生ではリーディングの授業の評価の一部として、3年生では Current News Issues の授業の評価の一部として多読を行っています。そして2年生では、あくまで多読だけを扱うエクステンシブ・リーディングというクラスで多読を行います。

エクステンシブ・リーディングの中では、クラスの中でも多読をしたり、Timed Reading ということで学生が時間を測ってリーディングを行ったり、あるいはペアになっていて読んでいる本を紹介したり、自分が非常におもしろかったと思う本をみんなの前で発表してもらったりしています。

2-⑦ 英字新聞で英語を学ぶ Current News Issues

英字新聞で英語を学ぶ Current News Issues も行っています。これは3年生の必修コースで、英字新聞、「The Japan Times On Sunday」を定期購読して、毎週それを読みながら、ディスカッションやプレゼンテーションなどを行うという授業です。リーディング力はもちろん、プレゼンテーションやディスカッションも行うので、4技能を総合的に伸ばすことができます。英語を読みながら国内の政治経済も学べるので、就職対策にも有効だと思います。

2-⑧ Honors English Program と英語基礎自律学習

その次に Honors English Program と英語基礎自律学習です。Honors English Program は、帰国子女や長期留学の経験者で高い英語力を持っている学生、2年生以上で TOEIC L&R が 800 点以上の学生を対象に、さらに英語力を伸ばすために行っており、HP Reading、HP Listening、HP Business Writing、HP Journalism English を開講しています。一方、英語基礎自律学習といって、1年生入学以降それぞれの学期でスコアの芳しくない学生、あるいは気になる学生については、教員がマンツーマンで学習をサポートしています。

2-⑨ 英語資格試験による単位認定

英語資格試験による単位認定は、多くの大学で行っていると思います。本学部でも、学生が英語資格試験で取得した点数に応じて単位を認定しています。

2-⑩ 夏季集中講座 STRIPE

夏季休暇中には、集中講座 STRIPE を実施しています。これは「Summer-Term Rapid Improvement Program of English」の略です。経済状態に余裕のない学生もいるので、留学はできないけれど、夏休みに勉強したいという学生に機会をつくるため夏季集中講座を2週間にわたり、毎日6時間授業を行っています。内容としては、学生の弱点補強、現在はリーディングの強化と TOEIC L&R の演習を行っています。

海外留学支援プログラム

次に留学支援プログラムについてお話しします。これは全学的な取り組みですが、留学する学生に資金のサ

ポートをするために10年ほど前に始めました。6カ月以上1年未満の長期留学の学生には最高金額40万円の助成、2週間以上6カ月未満の短期留学の学生には、最高金額20万円の助成を行っています。もちろん、あとでお金を返す必要はありません。派遣先としては、資料8に記載した大学です。

【資料 8】

3. 海外留学支援プログラム (全学での取り組み)

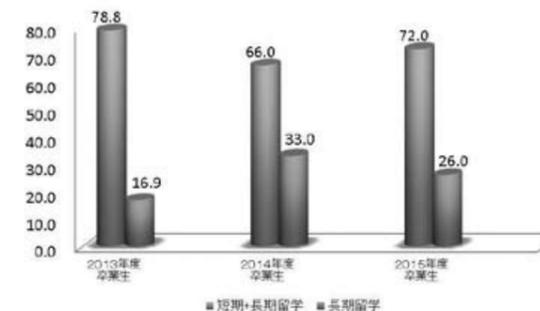
- ▶ 奨励金
 - 長期研修者(6か月以上1年未満の任意の期間): 最高額40万円の助成。
 - 短期研修者(2週間以上6か月未満の任意の期間): 最高額20万円の助成。
- ▶ 主な派遣先
 - アメリカ: セントラルワシントン大学、オクラホマ州立大学、サンノゼ州立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校など
 - カナダ: ヒューロン大学、クイーンズ大学、ウォータールー大学レニソンカレッジなど
 - イギリス: エジンバラ大学、オックスフォードブルックス大学、ロンドン大学キングスカレッジなど
 - オーストラリア: シドニー大学、クイーンズランド大学、タスマニア大学など
 - ニュージーランド: オークランド大学、カンタベリー大学など

資料9は海外留学支援プログラムの実績です。この3月に卒業した2015年度生は、短期・長期留学をしている学生の割合が72%、長期留学が26%、2014年度生は短期・長期留学が66%、そのうち長期留学が33%、また2013年度は、短期・長期留学が78.8%、そのうち長期留学が16.9%となっています。

【資料 9】

3. 海外留学支援プログラム

国際コミュニケーション学部の留学実績 (単位: %)



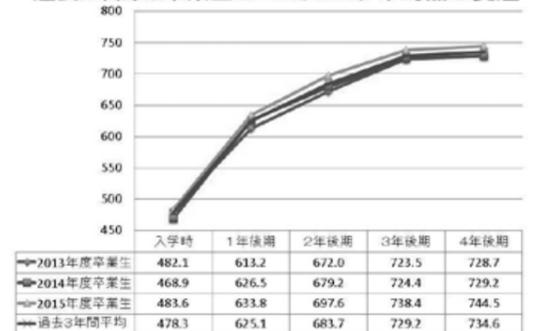
2012年度に本学の研究機関である外国語研究所が、学生が留学に行く前と行った後で、TOEIC L&R のスコアがどの程度変わるかを調査しました。その結果は、短期留学の学生53名は、行った後に平均84.2点スコアが上がりました。長期留学の27名は、160.2点スコアが上がっています。このことから、留学が英語力の伸びにいい影響を与えていることがわかります。

TOEIC® Program データに見る、本学部学生の英語力

【資料 10】

4. TOEIC Programデータに見る本学部学生の英語力

過去3年間の卒業生のベストスコア平均点の変遷

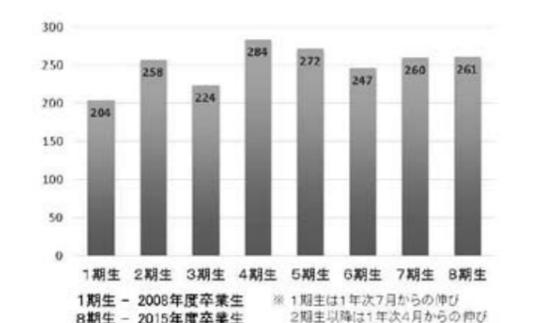


次に、TOEIC Program データ (資料10) に見る、過去3年間の卒業生のベストスコアの平均点の推移です。先ほどご紹介したとおり、だいたい毎年同じような推移でスコアが上がっています。過去3年間の入学してから卒業までのスコアの上昇の平均は256.3点で、卒業時の平均スコアが734.6点となっています。

【資料 11】

4. TOEIC Programデータに見る本学部学生の英語力

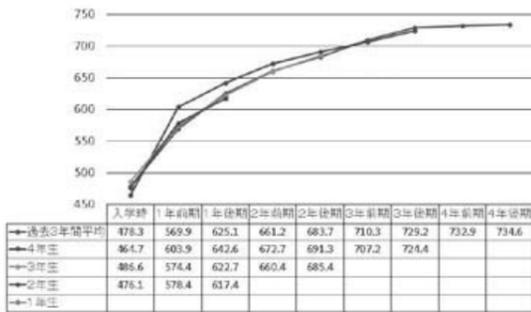
4年間のTOEIC L&Rスコアの伸びの平均



資料11は、4年間の TOEIC L&R のスコアの伸びの平均を1期生からまとめたものです。8期生は2016年3月に卒業した学生です。英語プログラム導入初期は多少伸びの低い時期もありましたが、英語プログラムが安定してからは260点前後の伸びを示しています。

【資料 12】

4. TOEIC Programデータに見る本学部学生の英語力
過去3年間の卒業生と在学生の比較

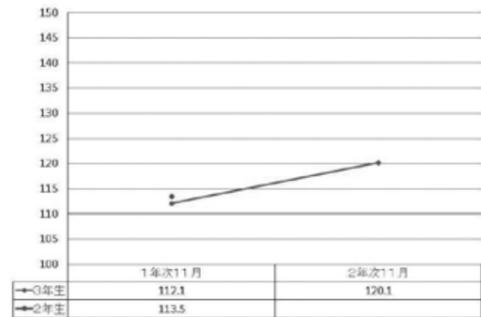


資料 12 は、あくまで参考ですが、過去 3 年間の卒業生と在学生のスコアの伸びの比較です。だいたい似たような線をたどっていることがわかります。

今年 7 月にも TOEIC L&R を受けているのですが、発表までに集計が終わらなかったため、現 4 年生も 3 年生の後期まで、現 3 年生も 2 年生の後期までのデータで、成績がアップロードされていないところがございます。

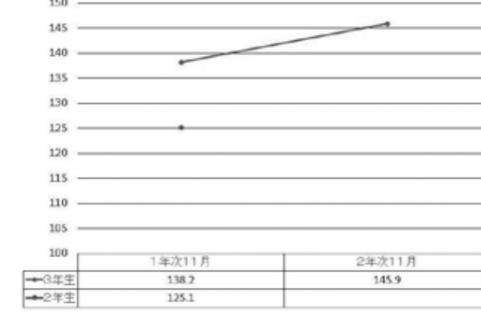
【資料 13】

4. TOEIC Programデータに見る本学部学生の英語力
TOEIC Speaking Test



【資料 14】

4. TOEIC Programデータに見る本学部学生の英語力
TOEIC Writing Test



TOEIC S&W は 2 年前から始めています。現 3 年生はこれまで 1 年次と 2 年次に受け、現 2 年生は 1 年次に受けています。Speaking Test は、現 3 年生が 1 年次の 11 月に受験した平均スコアが 112.1 点、2 年次が 120.1 点、現 2 年生が 1 年次に受験した平均スコアが 113.5 点となっています。また Writing Test は、現 3 年生が 1 年次の 11 月に受験した平均スコアが 138.2 点、2 年次が 145.9 点、現 2 年生が 1 年次に受験した平均スコアが 125.1 点となっています。

「TOEIC プログラム DATA & ANALYSIS 2014」によると、語学・文学系英語専攻平均の学生のスピーキングの平均点数は 105.5 点、大学 1 年生の平均は 86.2 点、大学 2 年生の平均が 99.2 点ということを考えれば、本学部学生の平均点は少し高いとも思います。

本学部のホームページ (<http://www.gpwu.ac.jp/dep/int/>) に、これまでの卒業生の留学実績、TOEIC L&R スコアの伸び、就職関係の情報が PDF ファイルとしてまとまっていますので、ご興味があればダウンロードしてください。なお Facebook のページもごさいます。

第 2 部

国際コミュニケーション学部の英語教育

英語の勉強の動機付け

【資料 15】

第 2 部
国際コミュニケーション学部の英語教育
プログラムにおける TOEIC Program の活用

1. 英語の勉強の動機付け
2. 自分の英語力のモニター・目標管理
3. 学部としての学生の英語力のモニター
4. カリキュラムの見直し

第 2 部では、第 1 部の英語教育プログラムの紹介を踏まえて、本学部の英語教育に TOEIC Program をどのように活用しているかをお話しします。

最初に英語の勉強の動機付けについてです。これは多くの大学でも行われていますが、TOEIC Program の成績をプレースメントに使い、成績によってクラス編成を行なっています。クラスが上がったときはさらにやる気になり、落ちたときもこれはまずいということとで英語を勉強する動機付けになります。

【資料 16】

1. 英語の勉強の動機付け
学部としての TOEIC L&R の目標値

- ・卒業までに
学年平均 800 点
学生全員が最低 730 点取得
- ・学年平均目標

学年平均目標	
1年	660点
2年	730点
3年	790点
4年	800点

また、資料 16 にもあるように、学部全体の目標として、卒業までに TOEIC L&R を学年平均 800 点、学生全員が最低 730 点を取得するという目標を立てています。特に学生全員が最低 730 点を取得しなくて

はいけないということは、学生もかなり意識しているので、非常によい動機付けになっていると思います。学生には、TOEIC L&R の成績が出る度に、学年平均点を発表しています。

同じように TOEIC S&W でも目標スコアを示しています。学年平均でスピーキング 150 点、ライティング 170 点、学生全員が卒業までにスピーキングは最低 130 点、ライティングは最低 150 点の取得を目指しています。これは TOEIC L&R のスコアに対応するような成績を設定しています。

できれば学生全員に、卒業までに海外赴任レベルの英語力、CEFR で言えば全員 B2 レベルをつけてもらいたいと思っています。

【資料 17】

1. 英語の勉強の動機付け
学生個人の TOEIC Program の目標値

TOEIC L&R (当初点数は 1 年生 4 月受験分)		TOEIC Speaking Test (当初点数は 1 年生 12 月受験分)	
当初点数	目標点数	当初点数	目標点数
660	890	80	130
665	890	85	130
670	895	90	140
675	895	95	140
680	900	100	150
685	900	105	150
690	905	110	160
695	905	115	160
700	905	120	160
705	910	125	170
710	910	130	170
715	915	135	180
720	915	140	180
725	920	145	180
730	920	150	190
735	925	155	190
740	925	160以上	200
745	930		

もう一つ、TOEIC Program の利用方法として、学生一人ひとりに自分の目標スコアを設定させています。資料 17 にあるように、英語教育の専門の先生が見つけた計算式に基づいて、1 年生の 4 月にこれぐらいのスコアであれば 4 年後はこの程度の点数が目標になるということが示されており、オリエンテーションで学生に渡して意識させていきます。これにより学生は、自分の力に合った目標を持って、また自分の力に合った勉強方法で英語を学ぶことができます。

自分の英語力のモニター・目標管理

英語力のモニター・目標管理という点では、今年の 1 年生より、4 年間自分の英語のすべての成績を記録

する TOEIC L&R Score Portfolio (資料 18) をつけてもらい、英語学習の振り返りに活用しています。目標スコアなども書いて、絶えず自分の成績を管理し、自分の英語力の伸びを意識してもらうことが目的です。

数字の羅列だけでは、成績の上がり下がりがよくわからないので、一目でわかるように折れ線グラフもつけてもらっています。これによってやる気が出てくるのではないかと思います。TOEIC S&W も似たような形で Portfolio をつけてもらっています。

【資料 18】

2. 自分の英語力のモニター・目標管理

TOEIC Score Portfolio を用いたモニター・目標管理(1)

今回のセミナー発表をうけ、学生に Portfolio に関するアンケートを行いました。Portfolio は、今年 4 月の開始からまだ半年しかたっていないので、スコアの追跡調査もできていませんし、今後、Portfolio が成績の伸びにどのように貢献するかはまだわかりませんが、参考までに学生のアンケートを紹介します。

「目標があると日々の学習のモチベーションにつながる」、「自分の実力に合わせて目標を持つことで自分のペースで学習できる」、「グラフを書くことで視覚的に何点上がったか、下がったかが見えやすく、モチベーションを保ちやすい」、「過去の結果を振り返ってスコアが上がった、下がったときに、なぜ上がったか、なぜ下がったか、自己分析できて自分の勉強方法を反省し、次の勉強に活かすことができる」、「過去の先輩の入学から卒業までの点数の推移がわかると、さらにやる気につながる」。

特に、4 番目の「過去の結果を振り返って、スコアが上がったとき、下がったときに自分の勉強の仕方を自己分析して、そしてそれを勉強に活かすことができる」、これは非常に大切なことだと思います。これに加えて、たとえば TOEIC L&R のスコアレポートには成績の分析等が書いてあるので、それらを参考にして

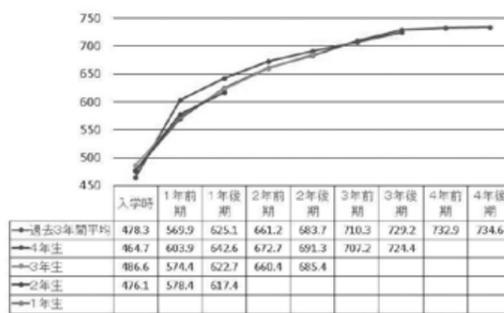
学生に勉強方法を考えてもらったり、あるいは千田先生の著書『自分のスコアのレベルに合った勉強方法』などを参考に、それぞれの学生に自分のレベルに合った勉強方法を考えさせることができればと思っています。

学生の英語力のモニター

【資料 19】

3. 学部としての学生の英語力のモニター

学部として各年度の在学生の英語力の伸びをチェック



資料 19 のように、学部全体で絶えず学生の英語力をモニターすることによって、それぞれの学年で、英語力が伸び悩んでいる原因や起こっている問題を絶えずチェックすることができます。そのような情報を教員間でお互いにシェアして活かしています。

カリキュラムの見直し

【資料 20】

4. カリキュラムの見直し

TOEIC L&R のスコアを分析した結果のカリキュラム見直しの例(1)

・3年生の必修科目として、英字新聞で英語を学ぶ Current News Issues を開設する。(10期生(現3年生)より始める。)

- 3年生、4年生で、TOEIC L&Rスコアの伸びが小さくなる。
- Reading のスコアが Listening のスコアよりも低い。

カリキュラムの見直しについては TOEIC L&R のスコアを分析して、その結果を実際のカリキュラム見直しに利用しています。たとえば、卒業生の TOEIC

L&R のデータを分析したところ、どうも 3～4 年生でスコアの伸びが小さい、またリーディングスコアがリスニングスコアよりも低くなるということがわかりました。その解決のため 2 年前から始めたのが、3 年生の必修科目となっている、英字新聞で英語を学ぶ Current News Issues です。これがカリキュラムの見直し例の 1 つです。

【資料 21】

4. カリキュラムの見直し

TOEIC L&R のスコアを分析した結果のカリキュラム見直しの例(2)

・100万語英語多読プログラム (10期生(現3年生)より始める。)

Listening			
		入学時	卒業時
6期生	2014/3 卒業	270.8	406.8
7期生	2015/3 卒業	270.0	404.3
8期生	2016/3 卒業	277.6	409.0

Reading			
		入学時	卒業時
6期生	2014/3 卒業	211.3	322.0
7期生	2015/3 卒業	198.9	324.9
8期生	2016/3 卒業	206.0	335.5

また、資料 21 から分かるように、リスニングとリーディングの卒業時の平均スコアを見ると、どうしてもリスニングに比べてリーディングが 80 点ほど低くなってしまいう傾向があります。これを改善するためにつくったのが、第 1 部でも紹介した 100 万語英語多読プログラムです。

また、TOEIC S&W を受験してわかったこともあります。われわれはスピーキングにも非常に力を入れています。期待したほどには TOEIC S&W のスピーキングのスコアが伸びませんでした。TOEIC S&W の形式に慣れていなかったと言う学生もいたため、今年の後期から TOEIC S&W の準備コースを開講する予定です。

以上、本学部の英語教育をご紹介します。最後に申し上げたいのは、本学部の英語プログラムの目標は、実際に使える高度な英語 4 技能の習得であり、TOEIC Program のスコアを上げることではありません。しかし、本学部の英語教育に TOEIC Program が大いに役立ち、それを有効活用しているということも事実ということで、今日の発表を締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

質疑応答

質問: 個人のレベルに応じた目標を設定について、たとえば進級ごとの節目で目標の見直しや再設定は行われるのでしょうか。

細井: 今年の 1 年生から開始したので、まだ検討しなければならないこともあります。1 年生のときのスコアをもとに目標設定しているため、まずは最初の目標をクリアしてもらい、その後の目標についてはこれから検討していきます。ただ個人の目標設定以外に、学部全員が TOEIC L&R 730 点以上取得という目標もありますので、これも学生には頑張ってもらいたいと思っています。

質問: TOEIC L&R による学部全体の目標スコアを設定していますが、今後目標スコアを引き上げる予定はありますか。またその場合、目標としている具体的スコア、変更の時期など教えてください。

細井: これも学生のスコアの推移を常に見て検討しなければなりません。TOEIC L&R では、卒業生が 5 期か 6 期出た段階で、平均点が 730 点ぐらまで行きましたが、そこからなかなか上がらない学生が結構いたので、さらに上を目指してもらうために、目標を学年平均 800 点にしました。しかし、われわれとしてはスコアゲームにはしたくない、単純にスコアだけよくなればよいということではありません。そこをどうするかは慎重に考えていきたいと思っています。

一方、TOEIC S&W は、まだ始めたばかりで、これから十分に検討の余地がありますが、卒業生を 4 期か 5 期見ないとわかりませんので、それを見て慎重に考えていきたいと思っています。

質問: 貴学ホームページの留学プログラムを拝見しましたが、制度の概要について教えてください。また留学前後のスコアの変化や学生の意識の変化など、もしあれば教えてください。

細井: 留学プログラムという意味では返済のない留学資金のサポートが 1 つ特徴です。短期留学の場合、最高金額 20 万、長期留学では 40 万までという金額で

TOEIC® Speaking & Writing Tests の採点方法および “タスク” の紹介

すが、無いよりははるかに学生は助かっていると思います。

それから、ほかの大学でもあると思いますが、協定校の場合には留学先の高い授業料を払わずに、本学の年間 50 万円ぐらいの金額で 1 年間留学ができます。協定校ではない場合も、本学の授業料を払わなくても済むという形で対応しています。

なお、どれぐらい伸びるかは、2012 年度の本学の外国語研究所の調査では、短期留学の場合は留学後平均 84.2 点、スコアが伸びています。長期留学の場合には、平均 160.2 点伸びているということで、留学の効果は非常に大きいと思います。また留学した後は、多くの学生が、「何ごとにもより積極的に取り組む姿勢がついた」と言っています。

質問: TOEIC S&W を活用されていますが、大学生にとって難しすぎるということはありませんでしょうか。また学生の反応について教えてください。

細井: 学生の何人かは、「TOEIC S&W のスタイル、問題形式に戸惑って、ちょっとやりづらかった」と言っていました。先ほども申しましたように、特にスピーキングのスコアは私達の期待よりも低かったのが、それが本当にスピーキング力がないからかどうかは、これからの動向をみていきたいと思っています。また、少しでも形式に慣れさせるために、後期に 1 コマだけですが、学部の全学生に向けて TOEIC S&W のコースを設け、興味のある学生はそのコースを選択できる形にしています。

Educational Testing Service (ETS)

Ms. Alyssa Francis



Profile

コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ修士(応用言語学)、セント・ベネディクト大学卒業(英語学)。Educational Testing Service (ETS) に所属。TOEIC® Speaking Test スコア部門のアソシエイトディレクターとして、品質向上のサポートを行いながら、TOEIC® Listening & Reading Test のリスニングパートと TOEIC Speaking Test の開発も行う。最近では、オハイオ州立大学にて英作文と ESL クラス、中国では複数の大学にて EFL クラス、米国では大人を対象とした ESL イマージョンクラスにて教鞭をとっている。

TOEIC® S&W 開発の背景と経緯

皆さん、お越しいただきありがとうございます。アリッサ・フランシスと申します。私は 2008 年から TOEIC® Program に携わっています。本日は TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC® S&W) についてお話しできることをうれしく思います。

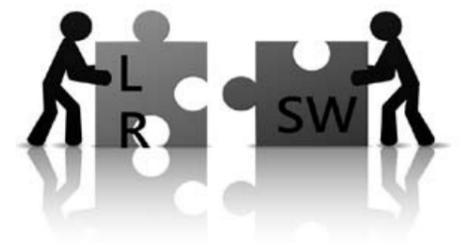
本日のプレゼンテーションでは 4 つのことを説明したいと思っています。まず、最初に TOEIC S&W が開発された背景とその経緯について簡単に説明します。2 つ目に TOEIC S&W の採点プロセスを説明し、3 つ目に採点プロセスをより明確にイメージしていただくために、いくつか実際の受験者の解答例を示して、その採点についてお話しします。最後に、指導者と受験者が英語力の向上のために、どのように TOEIC S&W の採点結果が活用できるのか、いくつか考えを提示します。

最初のトピックですが、効果的なコミュニケーションとは何でしょうか。コミュニケーションの大部分は、話すことや書くことによってメッセージを伝えることです。たとえば、2 人の同僚が会う時間を決めるために、会話またはメールでやりとりをしています。1 人が話すか書くかで “How about Thursday at three?” と問います。相手はそれを聞か読むかして、“That works for me.” と答えます。

ETS は「聞く」「読む」という受動的な能力と、「話す」「書く」という能動的な能力の関係性は非常に重要と考えています。

【資料 1】

Effective Communication



英語はグローバル言語としての活用がさらに高まっています。そのため、ビジネスシーンにおいて、英語の発信力を測定できる信頼性が高いツールへのニーズは高く、ETS はそれらのニーズに応えるため、英語を「話す」スキルと「書く」スキルを測定することができ、既存の TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) とあわせて研究開発を開始しました。

ETS は 2004 年に、世界で TOEIC Program を利用する学校や企業をはじめとする受験者のニーズを調査しました。調査の結果、国によってテストスコアはさまざまなかたちで活用されていました。そこからわかったことは、テストでは広範囲の英語能力の測定が必要ということでした。さらに、受験者は、英語力が高いか低いかにかかわらず、自分のスコアについて、有益なフィードバックを求めていることもわかりました。

テストを有意義なものにするためには、世界で実際に行われているタスクに基づいたものでなければなりません。また、高い信頼性を確保するために、採点は人によってなされるべきで、さらに公正なテスト環境をつくるためには、コンピューターでテストを実施する必要があります。

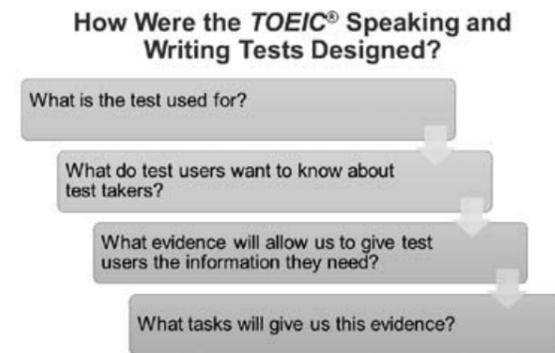
そのほか、テスト時間が合わせて 90 分以内であることや、セキュリティのために多くのテストフォームをつくるなど、実務的な条件も設定されました。

私が ETS で仕事を始めたのは 2008 年ですが、今日もテストの開発に携わった設計チームのメンバーの多くは ETS で働いています。メンバーの多くは、TOEIC Program 以外のスピーキングおよびライティングテストを手掛けた経験があり、TOEIC L&R を担当していた者もいます。また、TOEFL のテスト設計と開発の経験を持つ者もいます。

ETS のテスト設計者は、エビデンス中心型の設計、Evidence-Centered Design (ECD) という手法で TOEIC S&W をつくりました。資料 2 にある質問は、設計チームが、設計の各段階で検討すべきテーマです。この資料はそのプロセスを簡略化していますが、設計プロセスの実践的、そして方法論的性質が読み取れると思います。

“What is the test used for?” テストは何のために使われるのかについてですが、この質問の答えは皆さんもご存じかもしれませんが、TOEIC S&W はグローバルな職場環境において英語を「話す」能力、「書く」能力を測定するために使われます。

【資料 2】



次の質問はどうでしょうか。“What do test users want to know about test takers?” テストの利用者は受験者について何を知りたいのでしょうか。タスクを作成する前に、テストで何を測定するのかを設計チームが正確に理解する必要がありました。

【資料 3】

Driving Question for TOEIC® Speaking and Writing Test Design

What do test users want to know about test takers' speaking and writing skills?

- A. That a test taker can produce flawless English.
- B. That a test taker can use English to effectively communicate.

それではここで、この重要な質問に関する二択クイズを出したいと思います。テストの利用者が知りたいのは、A. 受験者が完璧な英語を書くこと、話すことができるかどうか。B. 受験者が英語で話したり、書くときに効果的にコミュニケーションができるかどうか。答えは B です。TOEIC S&W はコミュニケーション能力を評価しています。問題に解答できた受験者は、日々の生活や職場で、情報を伝達するツールとして英語能力を発揮できたことを示しています。

重要なのは、英語が完璧であることではなく、適切であることです。この考えに基づいて、設計チームはテストの問題をタスクベースにすることを決めました。そして、スコアレポートは、エビデンスベースです。受験者は、各問題に適切に答えることが求められ、解答は問題の文脈についての関連性、そして発音や文法、語彙の活用がコミュニケーションにとって有効か、あるいは障害となったかが評価されます。

テスト開発の次のステップは、この考えの根拠とな

るエビデンスを特定することです。エビデンスを特定すると、設計チームはそのエビデンスを引き出せるタスクづくりに着手しました。

その後 2006 年には、世界の主要な国々の 2500 人以上が参加して 2 回のテストを実施しました。このテストで、各国のビジネスパートナーからの情報とフィードバックを取り入れ、現在のテスト設計に至っています。

資料 4 は現在の TOEIC® Speaking Test におけるタスク構成の概略です。

TOEIC Speaking Test は 20 分で、タスクによってさまざまな英語能力の受験者を測定します。この表には、問題数、各タスクの簡単な内容、評価基準、そしてタスクタイプに対するスコアの幅について書いています。表の下に行けば行くほど難易度が高くなり、最も難しいタスクのスコアの幅は、より広がっています。

Question 1 と 2 は、音読問題です。このタスクでは画面に短い英文が表示され、受験者はそれを音読します。スコアは、発音、イントネーション、アクセントを基準に採点されます。スピーキング能力の評価において、発音、イントネーション、そしてアクセントは、その発言を理解してもらうために必要となる重要な採点基準です。

Question 3 は、写真描写問題です。このタスクでは、よくある現実的な生活場面における人々の写真が表示されます。たとえばオフィスで仕事をしている、公園で自転車に乗っているなどのシーンです。受験者は、写真を見て描写します。このタスクでは発信力だけでなく、語彙の活用能力や構文能力が評価されます。

【資料 4】

Final Design of the TOEIC® Speaking Test

Question	Task	Evaluation Criteria	Score Range
1-2	Read a text aloud	<ul style="list-style-type: none"> Pronunciation Intonation and stress 	0-3
3	Describe a picture	<ul style="list-style-type: none"> Delivery Use of vocabulary and structures 	0-3
4-6	Respond to questions	<ul style="list-style-type: none"> Task completion Delivery Appropriate vocabulary and use of structures 	0-3
7-9	Respond to questions using information provided	<ul style="list-style-type: none"> All of the above, plus Accuracy of information 	0-3
10	Propose a solution	<ul style="list-style-type: none"> All of the above, plus Understanding of and response to a situation 	0-5
11	Express an opinion	<ul style="list-style-type: none"> All of the above, plus Expression of choice or opinion with support 	0-5

これらの最も簡単なタスクタイプは、言語能力が低い人でも自分が知っていることを発言できるよう設計されています。この様な人々に適切なタスクとなるよう、書かれた文章や写真を提示することで受験者の言語の負荷をできるだけ軽減しています。Question 1～3 は、実践的なタスクタイプではありませんが、あらゆるレベルの受験者から言葉を引き出す上では効果的です。

テストが測定するのは、現実的な状況において、いかに効果的にコミュニケーションできるかであり、Question 4～6 は、できるだけ実社会のタスクに近づけて設計されています。Question 4～6 は、応答問題と呼ばれるタスクです。友人の質問に答えたり、あるトピックについてアンケートの質問に答える設定になっています。たとえば、「週何回運動しますか」、「休日はいつも何をしますか」、「洋服はネットで買うのと店舗で買うのとどちらが好きですか」などです。これらは英語圏で暮らす人なら答えられる質問です。そして、実際のコミュニケーションを再現するために、解答を準備する時間は与えられません。

Question 7～9 は、提示された情報に基づく応答問題です。ここでも現実でありうる 3 つの質問に答えますが、問題は画面には表示されません。3 つの問題はすべて画面に表示されたスケジュールやアジェンダなどの情報に関するものです。

たとえば、画面にセミナーのアジェンダが表示されます。そして「アリッサ・フランシスは何時から何時まで講演を行いますか」、もしくは「横川綾子先生のプレゼンテーションの詳細を教えてください」といった問題が流れます。受験者は画面に表示された情報から質問に答えます。ほかのタスクと同様に、解答の準備時間はありません。

Question 10 は解決策を提案する問題、これが最も難しいタスクの 1 つです。受験者は留守番電話のメッセージや会議の一部の音声を聴きます。そして起こっている問題を把握し、その解決策を提案します。

たとえば、私が日本での銀行取引がうまくできず、銀行に電話をして留守番電話にメッセージを残します。そのメッセージは、「ATM で現金を引き出そうとキャッシュカードを入れたら、カードが ATM から出てこなくなっちゃった」

【資料 5】
 というものです。受験者は、これを聞いて内容を理解し、銀行の担当者のつもりで私に電話をして、今回の問題にどう対応するかといったメッセージを伝えなくてはなりません。

最後の Question 11 は、意見を述べる問題です。あるテーマについて考え、自分の意見と理由を発言します。これは社内ミーティングやクライアントとの打ち合わせでよくある、意見を求められる状況です。たとえば「プロジェクトは1人で担当するのと、チームで担当するのとではどちらがいいですか」などです。

資料 5 は現在の TOEIC® Writing Test におけるタスク構成の概略です。テスト時間

は 60 分で、タスクはライティング能力を幅広く測定するために設計されています。TOEIC Speaking Test と同様に、難易度の低いものから高いものの順となっており、難しい問題のほうが高いスコアが配分されています。また TOEIC Speaking Test と同様に、日常生活や職場環境において英語を使う人が直面するであろうタスクに基づいています。

最初の Question 1～5 は写真描写問題です。1 枚の写真と 2 つの語句が両面に表示されます。受験者はその 2 つの語句を使って、写真の内容に関連する正しい文法の文章をつくります。

たとえば、いま私が登壇しているこの光景について、皆さんは何と書きますか。これは最も簡単なタスクですので、ヒントとして woman、そして stage という 2 つの単語を提示します。“A woman is giving a presentation on the stage.” もしくは、“A woman is standing on the stage.” 両方とも正確に理解されるために正確な文法で関連性のある内容の文章です。

ライティング能力の重要な構成要素の 1 つに、TOEIC Speaking Test の最も簡単な問題と同様に、実生活にあるタスクではありませんが、文法があります。このタスクは、英語のライティング能力が低い人からも効果的に言語を引き出すことができます。

Question 6～7 は、E メール作成問題です。このタスクでは短い E メールを受信し、指示に従って返信メールを作成します。たとえば、宿泊先のホテルに到着する前に、「当ホテルでの滞在を楽しみにされていることと思います。ご旅行の準備で何かお手伝いできることがございましたら、ご連絡ください」という

Final Design of the TOEIC® Writing Test

Question	Task	Evaluation Criteria	Score Range
1-5	Write a sentence based on a picture	<ul style="list-style-type: none"> Grammar Relevance of the sentence to the pictures 	0-3
6-7	Respond to a written request	<ul style="list-style-type: none"> Quality of sentences Vocabulary Organization 	0-4
8	Write an opinion essay	<ul style="list-style-type: none"> Whether your opinion is supported with reasons and/or examples Grammar Vocabulary Organization 	0-5

ウェルカムメールを受信しました。受験者は 3 つの情報を得るためにメールでホテルに問い合わせることを指示されます。たとえば空港からホテルまでの行き方、ホテルの周辺の観光スポット、ホテルで宿泊が提供されているかなどです。

Question 8 は、意見を記述する問題です。受験者は提示されたテーマに対して自分の意見を記述します。自分の意見を整理して、理由や例と一緒に作文します。これは私がこのプレゼンテーションのために準備したことに似ています。プレゼン資料をレビューしてくれた同僚から、「一部のスライドを外したらどうか」というメールをもらいました。そのメールに対して、なぜそのスライドに載っている情報が重要で、プレゼンに残すべきかの理由を書いたメールを返信しました。

TOEIC® S&W の採点プロセス

それでは TOEIC S&W はどのように採点されているのでしょうか。テストの開発段階では、採点について、いくつかの課題が挙げられました。1 つ目は、採点者は受験者の個人情報や、その受験者がほかの設問でどのような採点結果だったかを知ることは採点に影響を及ぼすのでわからないようにすること。2 つ目は、比較可能な一貫した採点のためのテストフォームをつくること。3 つ目は、できるだけ短時間で多数のテストを採点できるようにすることです。

これらの課題に対応するために、設計チームが考え

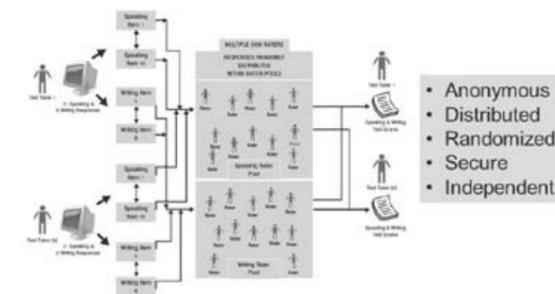
た最善策は、複数の匿名の受験者を採点することです。客観的な採点のために、目隠し採点を採用しました。つまり採点者は、受験者がだれて、ほかの設問でどのような採点結果ということだったのかを知らない状態で採点をする方法です。

さらに採点者は 1 つの設問だけを採点するほうが、採点の正確性が上がります。採点者のチェックと調整が可能となるためです。理想的なのは、採点者が複数の設問を採点するのではなく、同じ設問の解答を数多く採点することです。

また設問が同じタスクタイプのほかの設問との比較を可能にするために、厳格なテスト仕様に準拠して設計しています。テストの仕様はほかのテストフォームと比較可能であることも担保しています。設問の採点に一貫性があり、全体の難易度がほかのテストフォームと比較できるように、厳格な精度と質のチェックを行っています。最後に大切なことは、採点の問題を克服するために、優れた採点者がいることです。これについては後ほど説明します。

【資料 6】

Fair and Reliable Scoring Process



資料 6 は TOEIC S&W の採点プロセスの図です。テスト実施後、各受験者のスピーキングとライティングの解答は、個々の解答ファイルに分割され、タスクタイプによって整理されます。たとえば、全受験者のライティング Question 1 の解答は、1 つにまとめられ、Question 2、3 に関しても同様にまとめられます。スピーキングの解答もすべて同様に Question 1、2、3 とそれぞれグループ化されます。ETS 独自の採点システムを使って受験者の解答は無作為、かつ匿名で採点者に割り当てられます。採点者からは受験者のほかのテスト設問での成績も、ほかの採点者がその受験者のいずれの解答についてもどのようなスコアを与えたのか見えないようになっています。

オンラインの採点システムによって、採点者が受験者の最終スコアを左右する最大のスコア数も制御することができます。スピーキングとライティングのテストは、合わせて最低 6 人の採点者が各受験者の採点をするようになっていますが、実際には 2 つ合わせて、平均で 10 人の採点者が採点しています。したがって毎回のテストで複数の採点者がいるために、採点の客観性と公平性が最大限に保たれています。

【資料 7】

Highest Quality Raters



オンラインの採点システムに加えて、もう 1 つ公平で正確な採点を担保するのが、質の高い採点者です。資料 7 は、採点者がどのように選択されるのかを示しています。最初にレジュメを提出し、オンラインアプリケーションを完成します。それでもすべての人が合格するわけではありません。

合格すると、まずオンライントレーニングを受けなくてはなりません。オンライントレーニングを終了後、認証テストを受けて、正確に採点できることが認められなければなりません。ここでは本当にわずかな人しか合格しません。認証テストに合格して、実際に採点者となり採点するようになって、採点を開始する前に毎回キャリブレーションテストを受けることが要求されます。これは担当するセッションに特定したキャリブレーションテストで、これに合格しないとそのセッションを採点することはできません。

さらに、これまでとは異なる問題を採点する場合には、そのセッションに特化したキャリブレーションテストを受けなければなりません。これによって TOEIC S&W の採点者が毎日正確に、そして公平に採点することが担保されています。

採点者はこういったキャリブレーションテストを受け、合格後も ETS のコンテンツの専門家から常に採点状況をモニタリングされています。スコアリングリーダーは、経験値が高く、ある一定のグループの採

点者たちをモニタリングする役割を担っています。そしてスコアリングセッションの中でもきちんとメンタリングを提供することがあります。彼らは定期的にワークショップやトレーニングを受けます。またテストの開発者も採点期間中はスコアリングをチェックしています。たとえば問題の内容について、または通常では見たことのないような答えをどう採点するのかなどに対して対応しています。このようなスコアリングリーダー、そしてETSのエキスパートは、採点者の採点状況に目を光らせ、常にその動向をモニタリングしています。

さらに採点者の正確性を増すために、スコアリングガイドがそれぞれのタスクに対して提供されています。テストはタスクベースなので、採点は全体を見ながら行っています。つまり適切に、適正に問題に答えられていたか、そして発信力がどれくらいなのか見えます。

実際の解答に対する採点例

【資料 8】

Using Scoring Guides

- Holistic score
- Responses are rated on:
 - Task-appropriateness
 - Content
 - Grammar
 - Delivery
 - Vocabulary
- Score ranges depend on difficulty of task-type
- Separate Scoring Guides for different tasks

SCORE	RESPONSE DESCRIPTION
3	The response describes the main features of the picture. <ul style="list-style-type: none"> • The delivery may require some listener effort, but it is generally intelligible. • The choice of vocabulary and use of structures allows coherent expression of ideas.
2	The response is connected to the picture, but meaning may be obscured in places. <ul style="list-style-type: none"> • The delivery requires some listener effort. • The choice of vocabulary and use of structures may be limited and may interfere with overall comprehensibility.
1	The response may be connected to the picture, but the speaker's ability to produce intelligible language is severely limited. <ul style="list-style-type: none"> • The delivery may require significant listener effort. • The choice of vocabulary and use of structures is severely limited OR significantly incoherent with incomprehensibility.
0	No response OR no English in the response OR the response is completely unrelated to the task.

資料 8 は、比較的簡単な問題に対するスコアリングガイドです。このタスクに対しては、0～3 の得点範囲があり、それぞれの得点範囲に対し箇条書きで注意事項やチェックする項目を示してあります。

私たちのテストがどのように開発・採点されているか、ご理解いただけたと思いますので、具体的な問題に対する解答と採点のポイントを見てみましょう。

このタスクでは、受験者は資料 9 のような 1 枚の写真を見て、その内容を具体的に描写します。30 秒で解答を考え、45 秒でこの写真についてスピーチをしなければなりません。これから流す解答はレベル 3

【資料 9】

TOEIC® Speaking Test: Describe a Picture

Score 3

3 The response is effective and consistent of highly intelligible, sustained, coherent discourse.

- Speaker's delivery is almost always smooth and consistent, with almost no listener effort required
- Speaker's vocabulary is accurate and relevant to the picture.
- Speaker's use of structures allows coherent expression of ideas.



です。この写真の横のレベル 3 の具体的な評価として、「語彙、構文、発信力とも効果的であり、わかりやすい」となっています。つまりこの受験者は、文法、英語の運用でかなりの能力があるということです。

この解答者は、ネイティブの方にもわかりやすく、英語能力の高いノンネイティブの方にもわかると思います。このスピーチは、持続性も持っていますし、まとまりもあります。ただ、いわゆる母国語の影響も出ているので、これが採点にどのように影響するかが気になるかもしれませんが、必ずしもネイティブのような発音を求めているわけではありません。ETS は、最高レベルの完璧な英語を求めています。わかりやすく解答することが大切です。

【資料 10】

TOEIC® Speaking Test: Propose a Solution

Sample audio script:

Hi, this is Jennifer. I'm still in Chicago. My flight has been canceled due to the weather, so I won't be getting back until late tomorrow. I'm pretty sure all my meetings in the morning can be rescheduled, except I'm supposed to be interviewing someone tomorrow morning for the art director position, but I know I won't be back in time for that interview. So obviously something else needs to be planned. I'll need you to find a substitute for me, or in the worst case, reschedule. Please call me back with a detailed update on what you did and if you need me to give you any other information, so that I know what's going on when I get back to the office. Again, it's Jennifer. You have my cell number.

Respond as if you work for Jennifer.

In your response, be sure to

- show that you recognize the caller's problem, and
- propose a way of dealing with the problem

今度はもう少し難しい問題（資料 10）を見てみましょう。これは解決策を提案するタスクです。このテストでは、1 人または 2 人の話について、適切な解決策、またはその話の内容をよく理解していることがわかる解答をしなければなりません。これは 30 秒で準備をして、60 秒で答えます。

ここでは問題の原稿が見えていますが、実際のテストでは受験者は、問題を聴くだけで、資料 10 の下の

ほうにある 3 つの内容しか見えていません。

このプロットを音声で聞いた後、受験者は資料 10 の 3 つの内容を見ます。登場人物のジェニファーは問題があります。彼女のフライトはキャンセルされてしまい、仕事の面接を受ける予定が危なくなってきました。受験者は、このジェニファーの状況を理解し、何らかの解決策を提案することになります。たとえば、「仕事の面接をリスケする」、または「ジェニファーのパートナーが同僚がジェニファーに代わって面接をする」、もう 1 つの例としては「面接を電話で行う」などです。これはいくつかの解答の例にしすぎません。

ここで解答例を聴く前に、スコアリングについてお話ししたいと思います。写真描写問題よりも配点が高くなります。たとえばこのレンジは 0～5 です。なぜならば、このタスクはより多くの言語能力が必要となるからです。したがってもう少し厳格に現実の言語使用能力を見なければなりません。きちんとした解答を出すためには、一般的な仕事や職場でどのように対応するのか、そのような対応力も必要となります。

【資料 11】

TOEIC® Speaking Test: Propose a Solution

Score 5

5 The response is effective and consists of highly intelligible, sustained, coherent discourse.

- Response presents a clear progression of ideas and conveys the relevant information required by the tasks. It includes appropriate detail, though it may have minor omissions.
- Speech is clear with generally well-paced flow. It may include minor lapses or minor difficulties with pronunciation or intonation patterns that do not affect overall intelligibility.
- Response exhibits good control of basic and complex structures (as appropriate). Some minor errors may be noticeable but do not obscure meaning.
- Use of vocabulary is accurate and precise.

まず最初にお聴きいただく解答は、スコアは 5 です。このスコア 5 のスコアリングガイドをスクリーン（資料 11）に出しますので、参考にしてください。

この解答はいかがでしょうか。完璧でしたでしょうか。もちろん違います。躊躇もありましたし、若干不正確な部分もありました。しかしそのような部分は、全体の意味には影響はなかったと思います。この現実的な問題を、問題に設定されたという立場できちんと対応できるかを見せるに十分な解答だったと思います。

次に同じ問題に対して、スコア 3 を獲得した解答です。この 3 という得点ですが、部分的にはよい解答でした。しかしそれ以上の得点を得るためにはいく

つかの阻害要因があるということでレベル 3 のスコアリングガイドをお見せします。

【資料 12】

TOEIC® Speaking Test: Propose a Solution

Score 3

3 The response attempts to address the prompt, but tasks of parts of tasks are neglected. It contains intelligible speech, although problems with delivery and/or overall coherence occur; meaning is obscured in places.

- Response conveys some relevant information, but is clearly incomplete or inaccurate.
- Speech is basically intelligible, though listener effort is needed because of unclear articulation, awkward intonation, or choppy rhythm/pace; meaning may be obscured in places.
- Response demonstrates limited control of grammar. These limitations often prevent full expression of ideas. For the most part, only basic sentence structures are used successfully.
- Use of vocabulary is limited.

この解答は、実際に問題に対応しようとしています。が、受験者はタスクを誤解しています。そのため解答が不正確なものになりました。受験者は、飛行機の代わりにほかの交通手段を提案しようと考えています。この受験者は、頑張って解決策を提案しようとしているのですが、問題自体は解決されていないので、得点が 3 となりました。

採点結果を英語能力向上に活用

ETS では、英語によるコミュニケーション能力を測定するために、TOEIC S&W を開発しました。TOEIC S&W は教えるという観点では、正確で、信頼性のある情報を提供するものであり、英語能力を上げるという意味で非常に有益なものです。教員の皆さまが自分たちの生徒のスコアがどのレベルにあるのかをわかっているならば、その生徒の言語能力の強みと弱みが把握できるはず。その生徒が、いま何ができて、さらに英語能力を上げるためには何をやればいいのかもわかります。スコアの結果をもとに、授業プランをつくることもできると思います。生徒たちの英語でのコミュニケーションが上達するにつれて、TOEIC S&W のスコアも上がっていきます。

皆さま、ご清聴ありがとうございました。

TOEIC® Speaking Test のタスクを活用した技能統合型授業実践の一例

東京海洋大学 グローバル人材育成推進室
特任准教授

横川 綾子 氏



Profile

国立大学法人東京海洋大学グローバル人材育成推進室特任准教授。教育学修士（英語教授法・テンブル大学ジャパンキャンパス）。2014年よりETS公認 TOEFL iBT® Propell Facilitator、2016年より TOEIC® Propell Workshop Instructor として活動中。取得資格に TOEIC® L&R スコア 990、TOEIC® S&W スコア 200/200、英検 1 級、通訳案内士など。

TOEIC® Speaking Test の学習目標

TOEIC® Propell Workshop Instructor の横川綾子と申します。普段は東京都品川区の東京海洋大学海洋科学部で、TOEIC 統括教員という職に就いています。昨今、東京海洋大学は、さかなクンで非常に知名度が上がっています。一度さかなクンに会ったことがあります。背が高く、インテリジェンス漂う紳士で、彼と同僚でいられることを非常にうれしく思います。

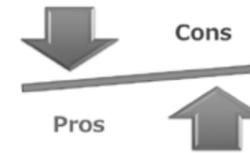
東京海洋大学海洋科学部は、TOEIC® Program に大変お世話になっています。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、4年次の進級要件に TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC® L&R) 600 点を課しています。今年の3年生がその進級要件適用1年目に当たりますが、仮に彼らが3年次末までに600点以上取れないと、「TOEIC 留年」するという、とても厳しい仕組みを導入しており、私はそのプログラムのコーディネーターとして日々業務に邁進しています。

海洋科学部は非常に小さな学部で、学部生がおおよそ1,200人ですが、6月のTOEIC団体特別受験制度(IP: Institutional Program) の受験者は300人で、4人に1人は受験した計算となり、IIBCさんにとってはメジャークライアントの1つであると自負しております。

本日のセミナー、最後の30分間は、TOEIC® Speaking Test のタスクを活用した技能統合型授業実践の一例のご紹介ということで、実際に大学1年生4名に参加してもらって、15分ほどの模擬授業を行います。

【資料1】

Teaching to the test



“Teaching to the test” というフレーズをお聞きになったことがあるでしょうか。ウィキペディアによれば、「統一テスト対策に主眼を置いた教育手法」とのことです。つまり「テスト対策」や「テストに向けて教える」と解されるわけで、当然、これには賛否両論 (Pros and Cons) があります。「スコアゲームになってはいけない」というお話が本日のご登壇者からもありましたし、スコアを上げるためだけの教育はどうかという意見もあります。一方で、スコアという客観的な指標を用いて、受講生の学習効果を測るという有意義な面もあります。

【資料2】

TOEIC® Speaking Test

Questions 7-9: Respond to questions using information provided

(提示された情報に基づく応答問題)

個人的には、テストと、そのテストが要求するタスクによる部分がかかなり大きいと思います。たとえば TOEIC Speaking Test の Questions 7-9 は、提示された情報に基づく応答問題、正式名称は “Respond to questions using information provided” です。実は TOEIC Speaking Test には “Learning Objectives”、つまり「学習目標」があります。設問タイプは全部で1~6までで、本日皆さんにご紹介する Questions 7-9 は設問タイプ4に当たります。

【資料3】

Learning Objectives : Question Type 4 (Questions 7-9)

Learn to select appropriate language to conduct usual social and workplace interactions and to respond quickly and accurately to questions asking for information about a schedule.

(p.17, Workshop Manual of Propell® Workshop for the TOEIC® Speaking and Writing Tests)

設問タイプ4の Learning Objectives は資料3の通りになっています。ここでは、Propell Workshop という、英語の先生向けに約8時間にわたり英語で行うセミナーで配付されるマニュアルの内容を引用しています。日常生活や職場でのやりとり適切な言葉を選び、予定表に関する質問に素早く、正確に答える。そういうパフォーマンスができるようになるというのが Questions 7-9 の学習目標です。

「読む」「聞く」「話す」の技能統合型タスク

【資料4】

Questions 7-9 提示された情報に基づく応答問題 (3問)
提示された情報 (スケジュールなど) に基づいて、3つの設問に答える。情報は3つの設問に解答中ずっと画面に表示されているが、設問は音声のみで画面に表示されない。準備時間はなく、即座に解答する。解答時間は1問目 (Question 7) と2問目 (Question 8) が15秒、3問目 (Question 9) が30秒。

Questions 7-9: Respond to questions using information provided
Directions: In this part of the test, you will answer three questions based on the information provided. You will have 30 seconds to read the information before the questions begin. For each question, begin responding immediately after you hear a beep. No additional preparation time is provided. You will have 15 seconds to respond to Questions 7 and 8 and 30 seconds to respond to Question 9.



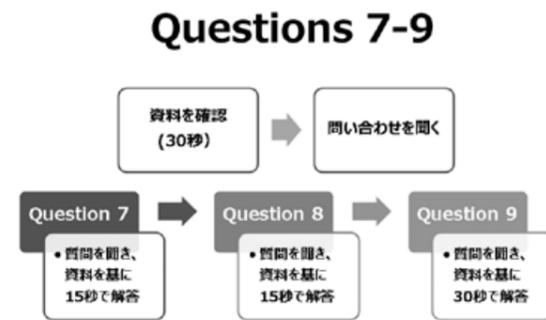
※まず画面に上の文章が表示され、次に下のメッセージが音声で流れます。最後に各設問が流れます。

- メッセージ (実際のテストでは画面に表示されません)
Hello, I'm calling about a conference on May 27 I saw advertised in the newspaper. It's about starting your own business. I was hoping you could give me some information.
- (実際のテストでは設問は画面に表示されません)
Question 7: Could you tell me what time the conference starts and how long it will last?
- (実際のテストでは設問は画面に表示されません)
Question 8: How much does conference attendance cost?
- (実際のテストでは設問は画面に表示されません)
Question 9: I may not be available for the full day. Could you give me information about the activities in the morning, before lunchtime?

では、Questions 7-9 (資料4) の構成をご確認ください。まず、受験者はパソコンの画面上で予定表を30秒間見て、一通りその内容を把握します。そのあと、ヘッドホンから質問が聞こえてきます。最初に、「自分はこういう者で、こういう案件について問い合わせをしたい」というイントロダクションがあって Question 7 が始まります。質問は画面には表示されないで、音声を聞いて内容を理解します。その後、画面に表示されている資料をもとに15秒で解答します。

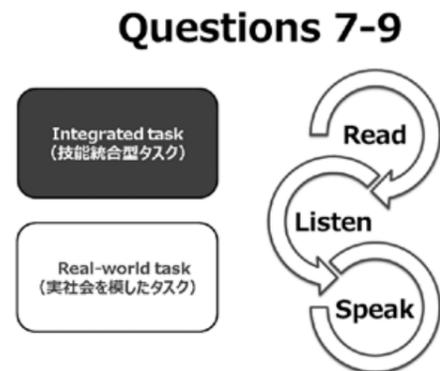
Question 8 も質問を聞いて、資料をもとに 15 秒で解答します。最後の Question 9 だけが少し長く、質問を聞いて資料をもとに 30 秒で解答するというスタイルになっています。

【資料 5】



Questions 7-9 の 3 問は、それぞれ設問の特徴があります。Question 7 は特定の情報に関する質問です。たとえば、イベントの会場や開始時間、終了時間などです。Question 8 は、情報の確認や訂正です。問い合わせをしてきた人が持っている情報を修正したり訂正したりするものです。例えば、問い合わせをしてきた人が、「ある講演者のプレゼンテーションを楽しみにしている」と言っていますが、実は、その講演者のプレゼンテーションはキャンセルとなりスピーカーが変わったということを伝えるようなタスクです。また、Question 9 は、「午前中に何があるかをまとめて教えてください」という問い合わせが多いので、情報を自分で要約するスキルが求められます。

【資料 6】



Questions 7-9 では、まず資料を読んで理解し、問い合わせを聞く。画面に文字が出ないので、音声情報だけで理解します。それをもとに適切な情報を拾って話す。つまり、「Integrated Task」、技能統合型タスク

になっているわけです。これが Questions 7-9 の大きな特徴の 1 つです。

もうひとつの特徴、Real-World Task

2 つ目の特徴は、Real-World、実社会を模したタスクであることです。例えば国際的な職場で働き、自分たちでイベントを運営しているとする。その担当者として、イベントに関する電話の問い合わせに英語で対応するという場面を想定します。手元の資料を見ながら、セミナーに来てくれる方の問い合わせに対応するという、非常にリアリティのある設定です。

【資料 7】

15 minute demo lesson with university students



本日は 4 人の大学生が生徒役として参加してくれますので、このサンプル問題を使って 15 分ほど模擬授業をしてみたいと思います。繰り返しますが、Questions 7-9 のタスクの特徴は、Integrated Task であり、Real-World Task です。その部分を見ていただきたいと思います。

本日の模擬授業の対象者は大学生、中級以上と申し上げました。イメージとしては CEFR で言うと B1、たとえば国内の英語能力試験では英検 2 級に合格するレベル、TOEIC L&R では 700 点より上のレベルを想定しています。授業の目的は、技能統合型アクティビティを通じて TOEIC Speaking Test Questions 7-9 のタスクに対応できるスキルを身につけることです。

模擬授業



私はこのイベントを主催するプロジェクトリーダーです。社内会議で、来たるイベントの詳細をプロジェクトメンバーに話しているところです。そして皆さんは、このプロジェクトのメンバーです。皆さんの手元にはこのカンファレンスのスケジュールがあります。これから私が伝える情報を書き取って、質問に答えてください。

(学生に英語での質疑応答～ 15 分間の模擬授業)

【資料 8】



このように TOEIC セミナーで実際の模擬授業を行うのは、おそらく初の試みだと思います。学生さんには事前に資料を渡していないので、本当にぶっつけ本番でした。学生さんはよく参加してくれたと思います。

今回は、全て英語で模擬授業を行いました。本日授業に参加してくれた皆さんは、もともと英語の苦勞が少ない方たちで、視覚素材にも助けられて、難なくやってくれましたが、こういったビジュアルの助けがあれ

ば、英語で英語を教えるタスクベースの授業は成立するのではないかと個人的には思っています。

ではここで、振り返りを行いたいと思います。

【資料 9】

振り返り

Learning Objectives : Question Type 4 (Questions 7-9)

Learn to select appropriate language to conduct usual social and workplace interactions and to respond quickly and accurately to questions asking for information about a schedule.

(p.17, Workshop Manual of Propell® Workshop for the TOEIC® Speaking and Writing Tests)

Questions 7-9 は資料 9 のような Learning Objectives がありました。日常生活、また職場でのやりとりで適切な言葉を選んで、予定に関する質問に素早く、そして適切に答える、そういったスキルを身につけようという学習目標がありました。

【資料 10】

【タスクの流れ】

- 資料に目を通し、概要をつかむ
- 問い合わせを聞き、状況を理解する
- 質問を聞き取り、関連情報を読み取る
- 資料を見ながら、応答する

このサンプル問題の流れは、資料に目を通して概要をつかみ、音声で問い合わせを聞いて状況を理解し、質問を聞き取り、関連情報を読み取って資料を見ながら応答するというタスクでした。

【資料 11】

【アクティビティの流れ】

- 情報を聞き取って穴埋め R・L・W
- 関連情報を選んで伝える L・R・S
- 質問に素早く正確に回答する L・S
- (Q7-9のタスクに挑戦) R・L・S

L: Listening R: Reading S: Speaking W: Writing

今回お見せした模擬授業では、まず情報を聞き取って穴埋めをするアクティビティをしてもらいました。私がプロジェクトリーダーで、最終決定した詳細を学生たちに伝達し、穴埋めをもらうというかたちです。このアクティビティでは、Reading と Listening と Writing の技能が統合されています。

続く関連情報を選んで伝えるアクティビティでは、たとえば営業部に勤めている人にはどんなセミナーを勧めたらいいか、ふさわしい情報を選択して応答する。これには Listening と Reading と Speaking、この3つの技能が統合されていました。最後は実際に電話を受け、問い合わせに答えるという設定で3つの質問に素早く、正確に応答する。これは Listening と Speaking の技能統合でした。

実際の授業では、この音声を使って実際にテストのタスクに挑戦してもらうこともできると思います。

いま見ていただいたのは、ほんの一例です。たとえば先生方が普段なさっている、同じ予定表の違うところに空所があり、お互いに情報を聞き取りながら、その空所を埋めていくというインフォメーション・ギャップにも応用できると思います。

また別の応用例として、学生をセミナーの参加者に見立てて、「自分にはこういう興味がある」または「こういう会社で働いている」という設定を与えて、では「自分たちはどういうセミナーに行くべきか」を考え、ディスカッションしてもらい、プランを決める。

さらに、Question 7 の前に流れる留守番電話の問い合わせを聞いて、留守番電話にメッセージを残すときにはどのような言葉遣いやテンプレートがあるかということを練習してもいいと思います。型を知っていると、テストのタスクや実生活で問い合わせを聞いたときに、「ああ、この流れで、問い合わせはこういう

ふうに進んでいくのだ」と先を予想しながら聞けるので、こうした練習は非常に大事だと思います。

TOEIC Speaking Test については、書籍も出ていません（資料 12）。また英語教員向けの Propell Workshop for the TOEIC Speaking & Writing Tests というワークショップも、日本で随時行っております。ご興味があればぜひご参加ください。本日はご清聴、ありがとうございました。



【資料 12】



- TOEIC® Speaking & Writing
公式 テストの解説と練習問題
発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
- TOEIC® スピーキングテスト/ライティングテスト
公式ガイド（新装版）
発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
- Propell® Workshop for the TOEIC®
Speaking and Writing Tests

発行月 2016年11月

発行 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル
TEL (03) 5521-5012

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル
TEL (052) 220-0282

大阪 〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町 3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL (06) 6258-0222

公式サイト <http://www.toEIC.or.jp>



当協会は
プライバシーマークを
取得しています。

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of Educational Testing Service, Princeton, New Jersey, U.S.A., and used in Japan under license. Portions are copyrighted by Educational Testing Service and used with permission. 本書の無断転載・複製を禁ず